6
モーセ
聖徒伝 32
「約束の主
契約の民」
出19～24章　律法の授与・シナイ契約

【今日のアウトライン】

０. ふりかえり

Ⅰ. シナイ山での主の顕現　　19章

Ⅱ. シナイ契約・十戒　　20章1～17節

Ⅲ. まとめと適用

モーセの律法と

キリストの愛の律法

イスラエルの歩みは
すべて　アブラハムへの
神の約束から始まった

神は、
選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と　子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。

【予告された400年の奴隷の苦難】 創15:13～14

「あなた（アブラハム）の子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。」

■アブラハムへの約束通り、
　150年後、大飢饉を逃れて、一族はエジプトへ。

■400年で一大民族に成長したイスラエルは、
　多くの財をもって、エジプトを脱出することに!!

【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

イスラエルのエジプトでの400年も、
アブラハム契約のゆえに守られた!!

【三つの主な条項】

①子孫の約束

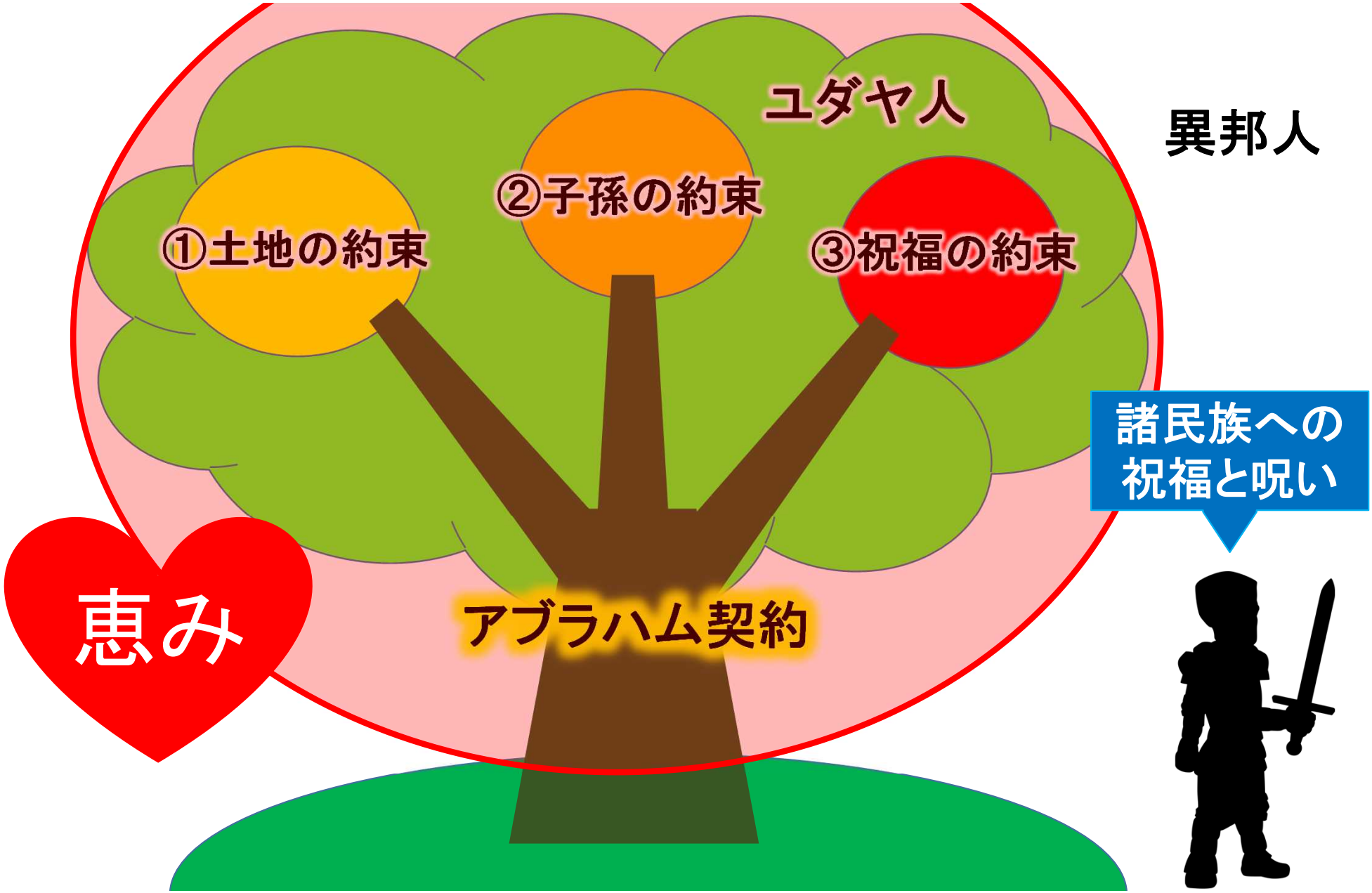
②土地の約束

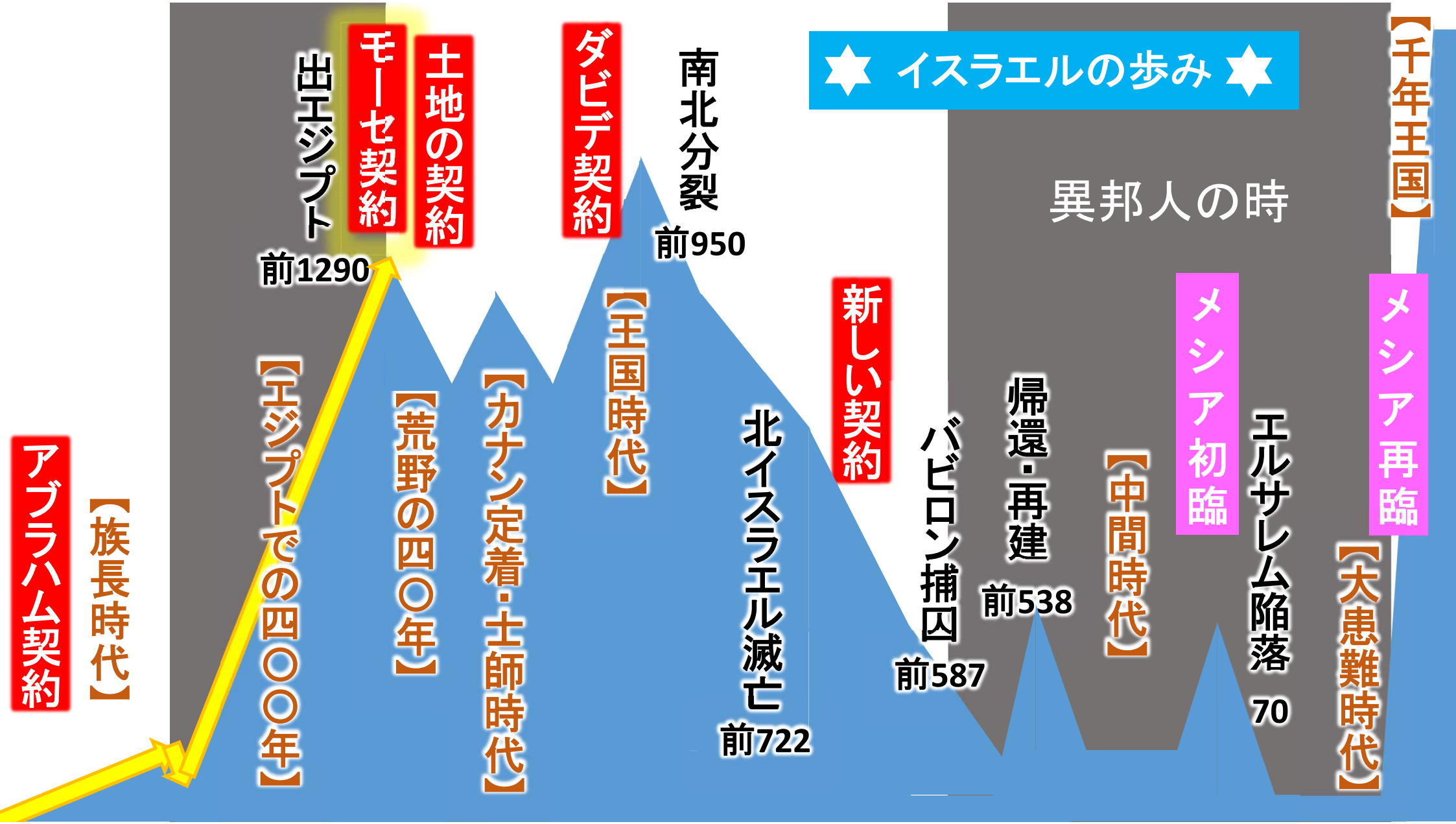
③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

※付帯条項　…祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし　…割礼

【アブラハム契約】




イスラエルの歩み
アブラハム契約
【族長時代】
【エジプトでの四〇〇年】
モーセ契約
出エジプト
前1290
土地の契約
【荒野の四〇年】
【カナン定着・士師時代】
ダビデ契約
【王国時代】
南北分裂
前950
北イスラエル滅亡
前722
新しい契約
バビロン捕囚
前587
帰還・再建
前538
【中間時代】
異邦人の時
メシア初臨
エルサレム陥落
70
【大患難時代】
メシア再臨
【千年王国】

【モーセの生涯】 誕生～40歳～80歳

■エジプトの王女に拾い上げられ、王宮で育つ。

■40歳の時、逃亡者となり、40年間を荒野で過ごす。

■80歳の時、イスラエルの指導者として召命される。

■パロとの交渉は決裂し、エジプトに災いが下る。

■イスラエルの民を連れ、エジプトを脱出。
　葦の海を渡り、いよいよ約束の地へ!!

【モーセの生涯】

0～40歳

奴隷の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に　40才

40～80歳

ミディアン人の娘チッポラと結婚

荒野での羊飼い生活

召命　80才

80～120歳

十の災い

出エジプト

シナイ契約

民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【シナイ半島の荒野の旅を経て】

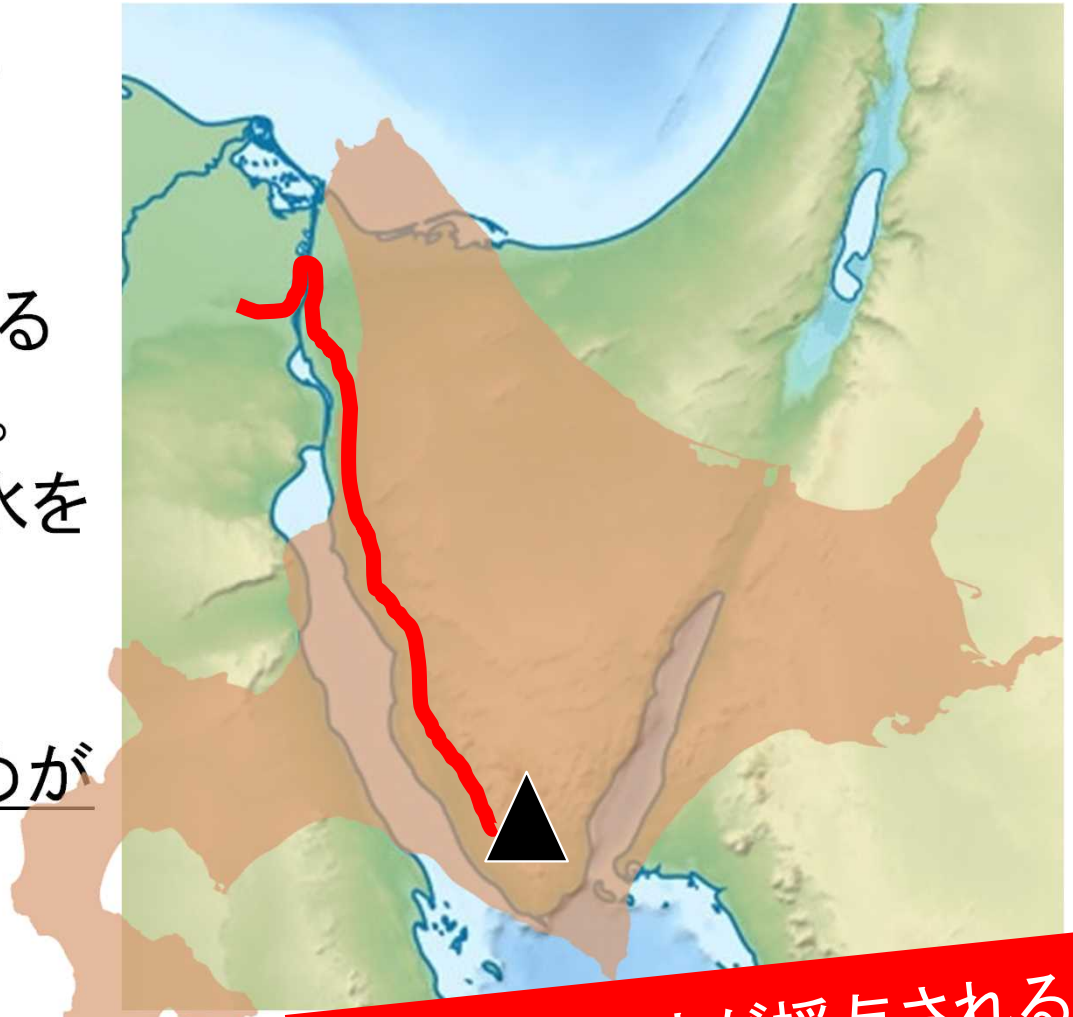
■葦の海を渡り、エジプトを脱出した
　イスラエルは、シナイの荒野へ。

■まもなく、民の不満が噴出。ことある
　ごとに、つぶやきが繰り返された。

■神は、天からパンを与え、岩から水を
　湧き出させ、民を養った。

■ミデヤン人の舅イテロは、<u>掟と定めが</u>
　<u>民には必要だ</u>とモーセに告げた。

■約3ヶ月の旅を経て、シナイ山へ。



いよいよ律法が授与される!!

Ⅰ．シナイ山での神の顕現
出エジプト記19章
ホレブ山脈・このどこかにシナイ山が!!

【シナイ山到着】 出19:1～2

エジプトの地を出たイスラエル人は、第三の月の新月*のその日に、シナイの荒野に入った。

彼らはレフィディムを旅立って、シナイの荒野に入り、その荒野で宿営した。イスラエルはそこで、山のすぐ前に宿営した。

＊第三の月の新月　➡3月1日。出発から42日。

三月目のその日(新共同訳)　➡3月15日。2ヶ月。

■「あなたが民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で、神に仕えなければならない。出3:12」

■イスラエルへの主の約束が、一つ成就した。

不平を述べ立てる民を、主が忍耐強く導かれて。

【約束の神に導かれて】 出 19:3～4

モーセは神のみもとに上って行った。【主】は山から彼を呼んで仰せられた。「あなたは、このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げよ。あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと*、また、あなたがたを鷲の翼*に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。」

＊拒絶したエジプトに、災いが下り、戦車部隊は、海に飲み込まれた。

＊鷲の翼　➡神の速やかな救出を表す。

■すべては、神の約束に基づいて成し遂げられた。

【イスラエルの存在意義と使命】 出19:5～6

「今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。

あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これが、イスラエル人にあなたの語るべきことばである。」

■神の契約が、イスラエルを特別な存在にした!!
契約に聞き従うなら、祝福が。背くならば、呪いが。

■イスラエルは、神を王とした、祭司の聖なる王国。
“神と全人類の間をとりなす祭司”こそ真の使命!!

【契約の下準備・民の意思確認】 出19:7～9

モーセは行って、民の長老たちを呼び寄せ、【主】が命じられたこれらのことばをみな、彼らの前に述べた。
すると民はみな口をそろえて答えた。「私たちは【主】が仰せられたことを、みな行います。」それでモーセは民のことばを【主】に持って帰った。
すると、【主】はモーセに仰せられた。「見よ。わたしは濃い雲の中で、あなたに臨む。わたしがあなたと語るのを民が聞き、いつまでもあなたを信じるためである。」
それからモーセは民のことばを【主】に告げた。

■モーセを仲介者に、契約の下準備がなされる。
　モーセは、弁護士か、司法書士のような役回り？！
■王である神の庇護の下、民が忠誠を誓う。
　➡“宗主契約” …王と民の間の契約。

【聖別の命令①】出19:10～11

【主】はモーセに仰せられた。「あなたは民のところに行き、きょうとあす、彼らを聖別*し、自分たちの着物を洗わせよ。

彼らは三日目のために用意をせよ。三日目には、【主】が民全体の目の前で、シナイ山に降りて来られるからである。」

■王なる神を迎える準備をするイスラエルの民。

＊聖別　➡神の所有として他から区別された。

■聖別にふさわしく、身を清め、整えた。

【聖別の命令②】出19:12～13

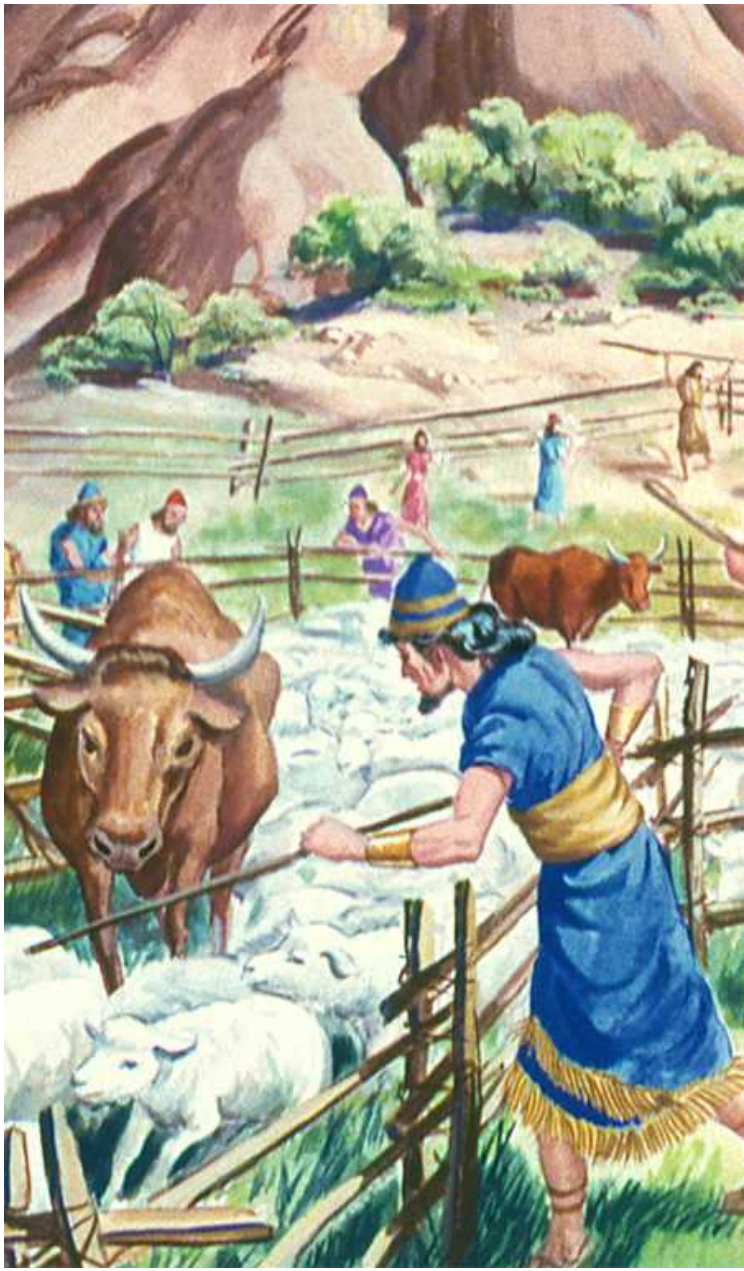
「あなたは民のために、周囲に境を設けて言え。山に登ったり、その境界に触れたりしないように注意しなさい。山に触れる者は、だれでも必ず殺されなければならない。

それに手を触れてはならない。触れる者は必ず石で打ち殺されるか、刺し殺される。獣でも、人でも、生かしておいてはならない。しかし雄羊の角が長く鳴り響くとき、彼らは山に登って来なければならない。」

■完全に聖なる神が臨在される、その山に、
　罪人は、触れるだけで死んでしまう。

■獣まで刺し殺される。➡徹底した聖別の実行!!

■イスラエルは身をきよめ、神が呼ばれるのを待った。



【神の顕現】 出19:14～16

それでモーセは山から民のところに降りて来た。そして、民を聖別し、彼らに自分たちの着物を洗わせた。モーセは民に言った。「三日目のために用意をしなさい。女に近づいてはならない。」

三日目の朝になると、山の上に雷といなずまと密雲があり、角笛の音が非常に高く鳴り響いたので、宿営の中の民はみな震え上がった。

■民は、着物を洗い、男女関係も避けた。
　意識をすべて、王なる神に向けるということ。

■これ以上ない形で、神は激しく顕現された。
　主の栄光(シャカイナグローリー)が勢揃い!!

【モーセを呼び出す神】 出19:19

角笛の音が、いよいよ高くなった。モーセは語り、神は声を出して、彼に答えられた。【主】がシナイ山の頂に降りて来られ、【主】がモーセを山の頂に呼び寄せられたので、モーセは登って行った。
【主】はモーセに仰せられた。
「下って行って、民を戒めよ。【主】を見ようと、彼らが押し破って来て、多くの者が滅びるといけない。
【主】に近づく祭司たちもまた、その身をきよめなければならない。【主】が彼らに怒りを発しないために。」

■山頂に、ひときわ激しい、神の顕現が!!
■モーセが、民の代表者として、
　王なる神の前に呼び出された。

【契約締結の準備完了】出19:23～24

モーセは【主】に申し上げた。「民はシナイ山に登ることはできません。あなたが私たちを戒められて、『山の回りに境を設け、それを聖なる地とせよ』と仰せられたからです。」

【主】は彼に仰せられた。「降りて行け。そしてあなたはアロンといっしょに登れ。祭司たちと民とは、【主】のところに登ろうとして押し破ってはならない。主が彼らに怒りを発せられないために。」

そこでモーセは民のところに降りて行き、彼らに告げた。

■やりとりを通して、神の聖さを確認させられるモーセ。

➡王を迎える準備ができているか。最終確認が!!

■こうして、契約締結の準備が完了した。

Ⅱ．十戒　　出エジプト記20章

【モーセの律法　十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約

・「十戒」がその中心　…全部で613の条項

(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

①救いの方法ではない。

②神が聖であることを示す。

③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。

④人の罪を示す

⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。

⑥人を信仰へと導く

⑦今現在は、すでに役目を終えた。

【十戒・まえがき】

20:1 それから神は　これらのことばを、
　ことごとく告げて仰せられた。
20:2「わたしは、あなたをエジプトの国、
　奴隷の家から連れ出した、あなたの神、
　【主】である。」

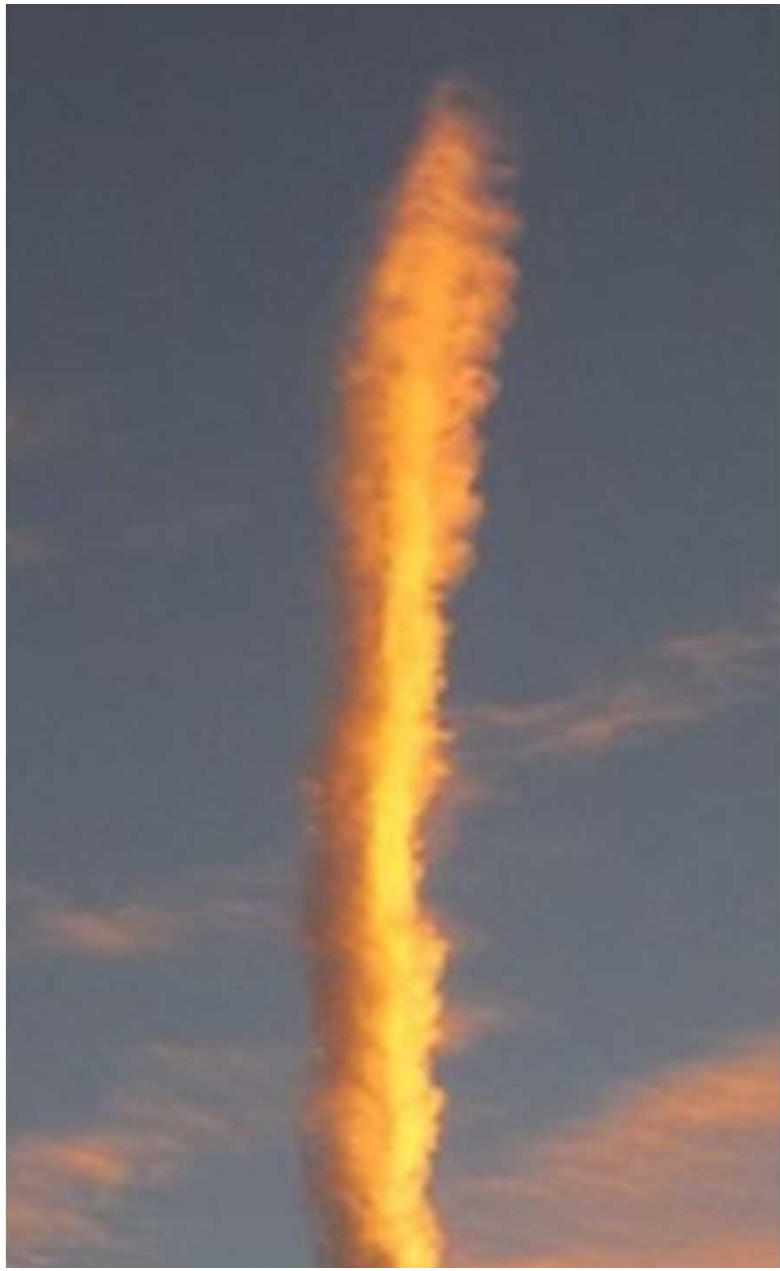
★モーセの律法は、宗主契約

■“宗主契約”　…王が、民と結ぶ契約。

●王は、民を支配し、保護し、
　　民に恩恵を与え、導く。

●民は、王に従う。

■唯一の神こそ、
　イスラエルと契約を結ぶ王だと宣言された。



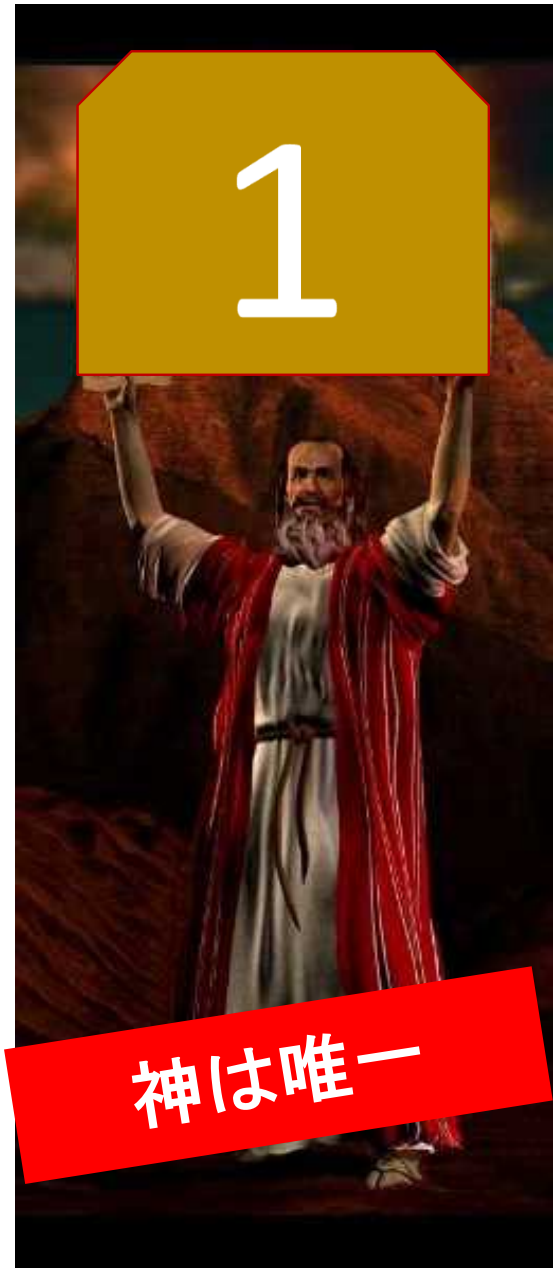
【十戒・第一戒】 出 20:3

「あなたには、わたしのほかに、
ほかの神々があってはならない。」

■“神は唯一である。” これを認めることが信仰の第一歩。

■イスラエルの民の使命は、
神が唯一であると、諸国民に示すこと。

「あなたがたはわたしの証人、—【主】の御告げ—わたしが選んだわたしのしもべである。これは、あなたがたが知って、わたしを信じ、わたしがその者であることを悟るためだ。わたしより先に造られた神はなく、わたしより後にもない。わたし、このわたしが、【主】であって、わたしのほかに救い主はいない。」 イザ 43:10～11



【十戒・第二戒①】 出20:4～5

あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。

■偶像とは、人間の欲望を形にしたもの。

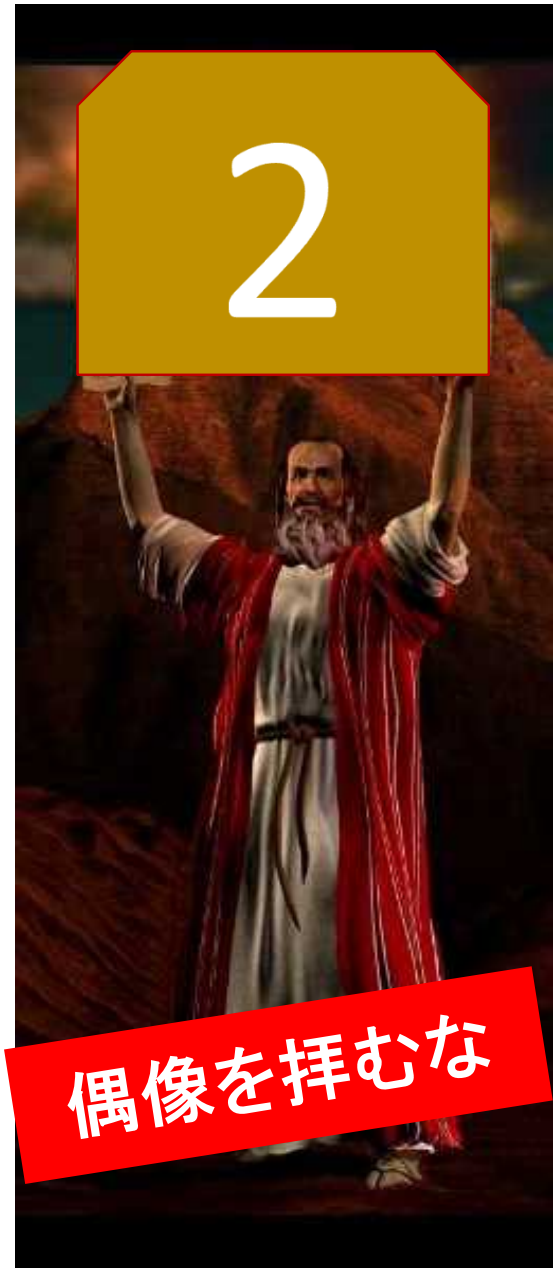
究極の偶像礼拝とは、自己中心。

➡自分の感情、感覚が絶対化される現代は？

Q：人形を作ることは、ゆるされてる？

➡礼拝の対象として、像を造ることの禁止。

例)　幕屋のケルビム、青銅の蛇…。



【十戒・第二戒②】 出20:5～6

あなたの神、【主】であるわたしは、ねたむ神*、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い*、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施す*からである。

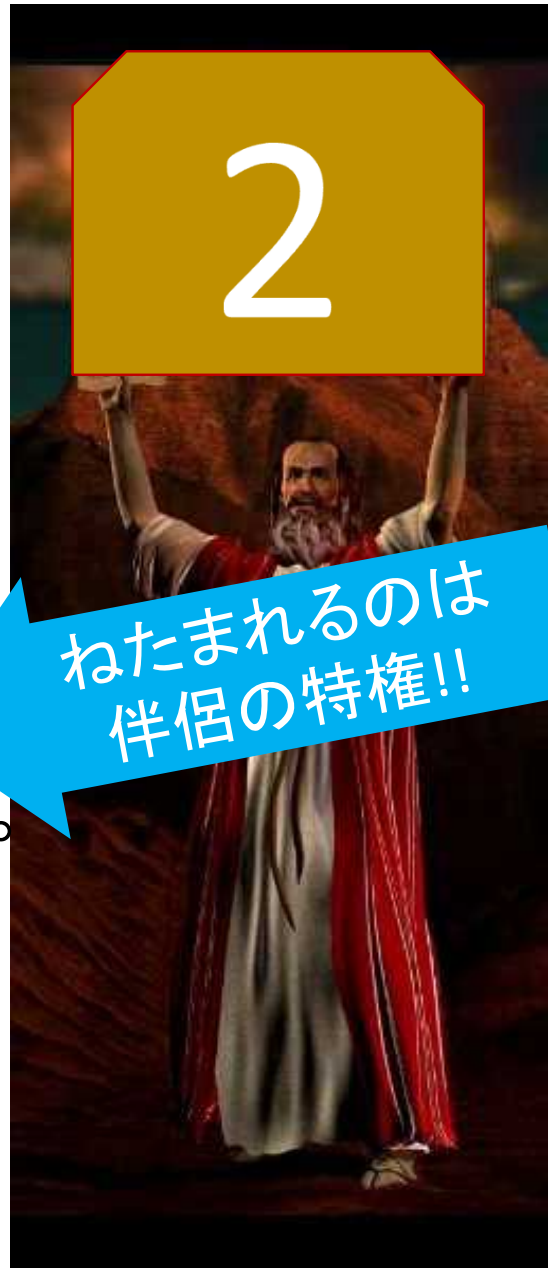
＊伴侶の不貞をねたむのは、当然の愛の行為。

➡イスラエルは神の妻。神は、民の不貞をねたむ。

＊先祖の悪影響が、ひ孫の代まで及ぶこと。

＊一方、契約による神の恵みは、永遠に続く。

愛の神は、イスラエルの不貞をねたむ!!

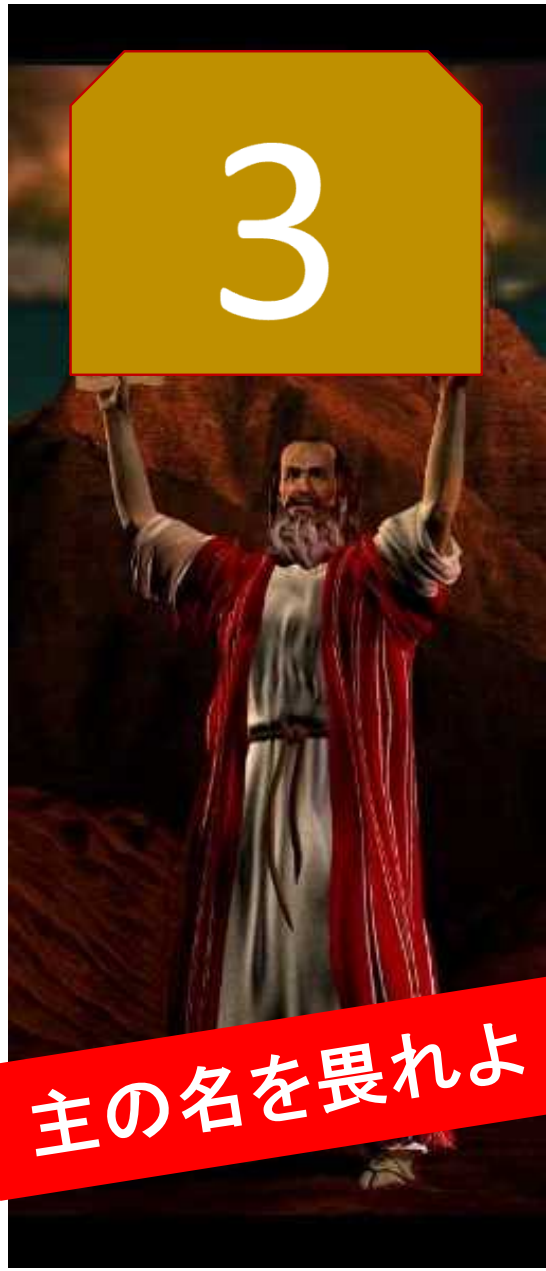


【十戒・第三戒】 出20:7

あなたは、あなたの神、【主】の御名を、
みだりに唱えてはならない。【主】は、御名をみだりに
唱える者を、罰せずにはおかない。

■神の尊厳やご性質を、引き下げてはいけない!!

Q：間違った名前と分かっていながら呼ぶことは？
『エホバ』 × → 異邦人クリスチャンの間違い。
『ヤハウェ』 ○
※アドナイ(主)の母音記号がついた“YHWH”を
そのまま読んだため、エホバになってしまった。

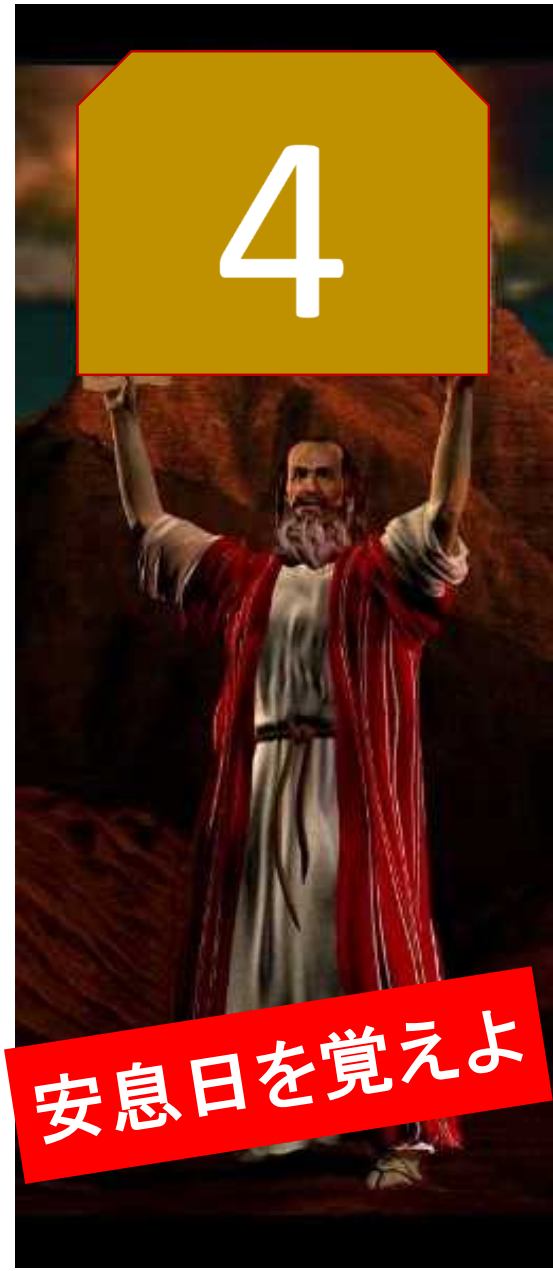


【十戒・第四戒】 出20:8
安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。

■安息日は、週の七日目。土曜(金曜・夕～土曜・夕)
★安息日は、モーセ契約のしるし
契約の民を、偶像礼拝の他民族と区別するもの。

Q：礼拝は、土曜日にささげるべき？
①安息日は、休息の日。礼拝は、祭りの時。
②モーセの律法は、現在は無効。

「ある日を、他の日に比べて、大事だと考える人もいますが、どの日も同じだと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。」 ロマ14:5



【十戒・第五戒】 出20:12

あなたの父と母を敬え。あなたの神、【主】が与えようとしておられる地で、あなたの齢が長くなるためである。

Q：イスラエルにとって、「父母を敬う」とは？

■父母を敬う ➡ 先祖が、唯一の神と契約を結び
父母が、その契約を受け継いだゆえに。

■父母に従う ➡ 神の立てた秩序と権威に従うこと。
謙遜を学ぶこと。

■齢が長くなる ➡イスラエルが、約束の土地で
平安に、長く住むこと。

■権威に対する、正しい恐れを持っているか？
例) 福島瑞穂議員…「目上」は、おかしい

【十戒・第六戒】 出20:13
殺してはならない。

■個人的理由で、意図的に、故意に殺すことの禁止。
➡命の尊厳を教えたもの。

■偶像礼拝や姦淫、重大な律法の戒めを破った者に、
モーセの律法は、死刑を定めている。

■神の命じる聖なる戦いにおける殺人も含まれない。

Q:第六戒は、死刑廃止や戦争反対の根拠になる？

【十戒・第七戒】 出20:14
姦淫してはならない。

■不貞だけでなく、同性間の性行為、近親相姦など、
正当な婚姻外の、すべての性的罪を含む。

【十戒・第八戒】 出20:15
盗んではならない。

■私有財産の尊厳を教えたもの
■盗むことは、自分には、思い通り、好き勝手に生きる
権利があるという究極の利己主義、自己中心。

【十戒・第九戒】 出20:16

あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。

■真実の大切さを教えたもの。

■個人的な嘘ではなく、隣人に対する偽証のこと。

➡法廷での偽証から、偽りの噂話まで。

例) フェイクニュースも偽証!!

■真実を貶め、偽ることは、
真実の方である神を貶め、偽ることにつながる!!

真実が大切なのは、神が真実の方だから!!

【十戒・第十戒】 出20:17

あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

■「貪欲」という、人の心にある罪の根っこの問題。

■“神はすべての必要を満たしてくださる”という、神への信頼・信仰を否定するのが、貪欲の罪。

■貪欲を禁じた、第十回を守ることができれば、十戒すべてを守ることができる。

Ⅳ. まとめと適用

モーセの律法と
キリストの愛の律法

【モーセの律法とは何か？　何のために与えられたのか？】

■律法は、イスラエルの養育係。幼子を＿アメ＿と＿ムチ＿で導くもの。
(祝福)　(呪い)

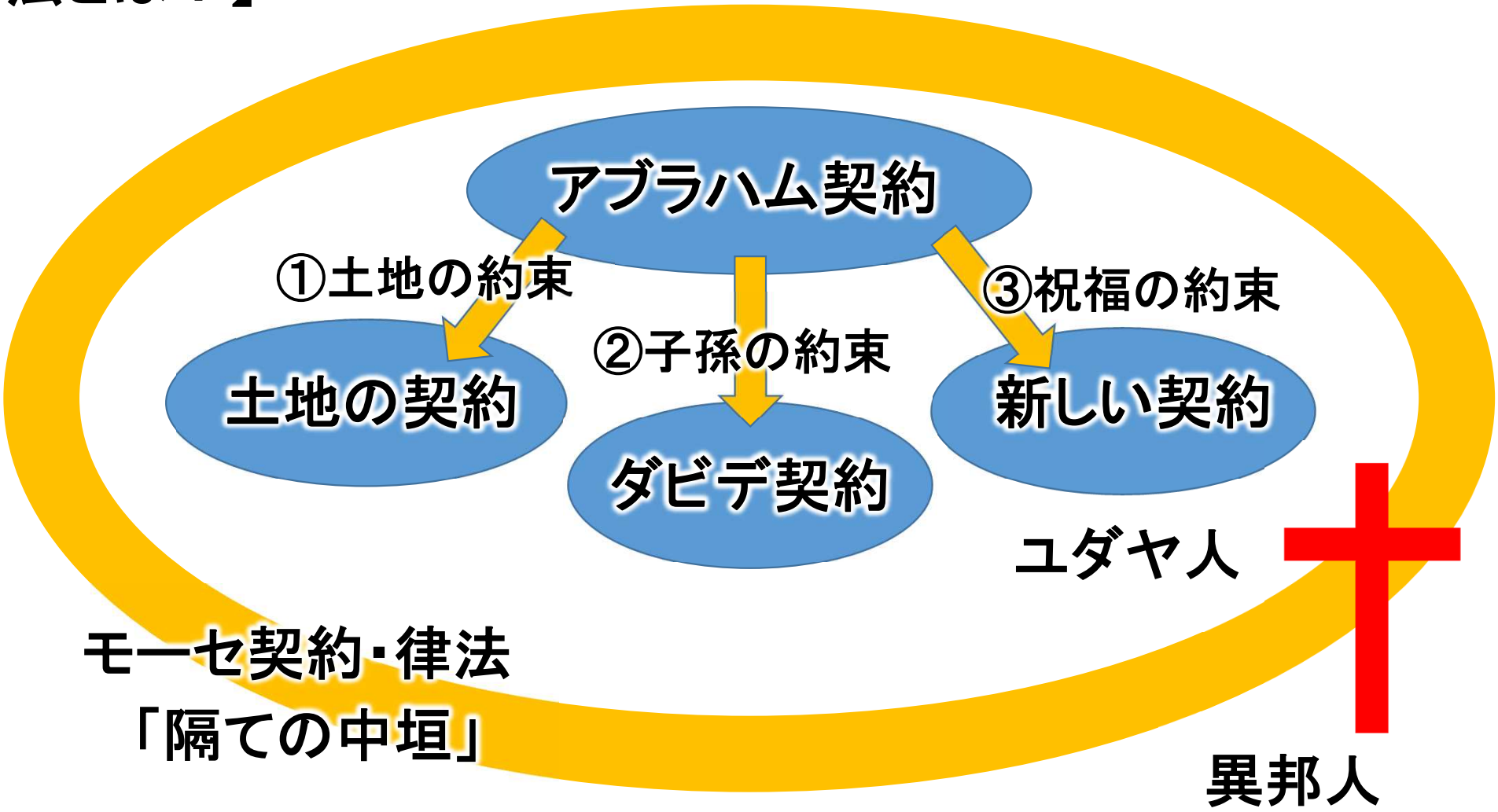
■神によって奴隷から救い出されたイスラエルが、
どう歩むべきかを示し、信仰の成長を促すもの。

■しかし、イスラエルは、律法を守り通すことができなかった。

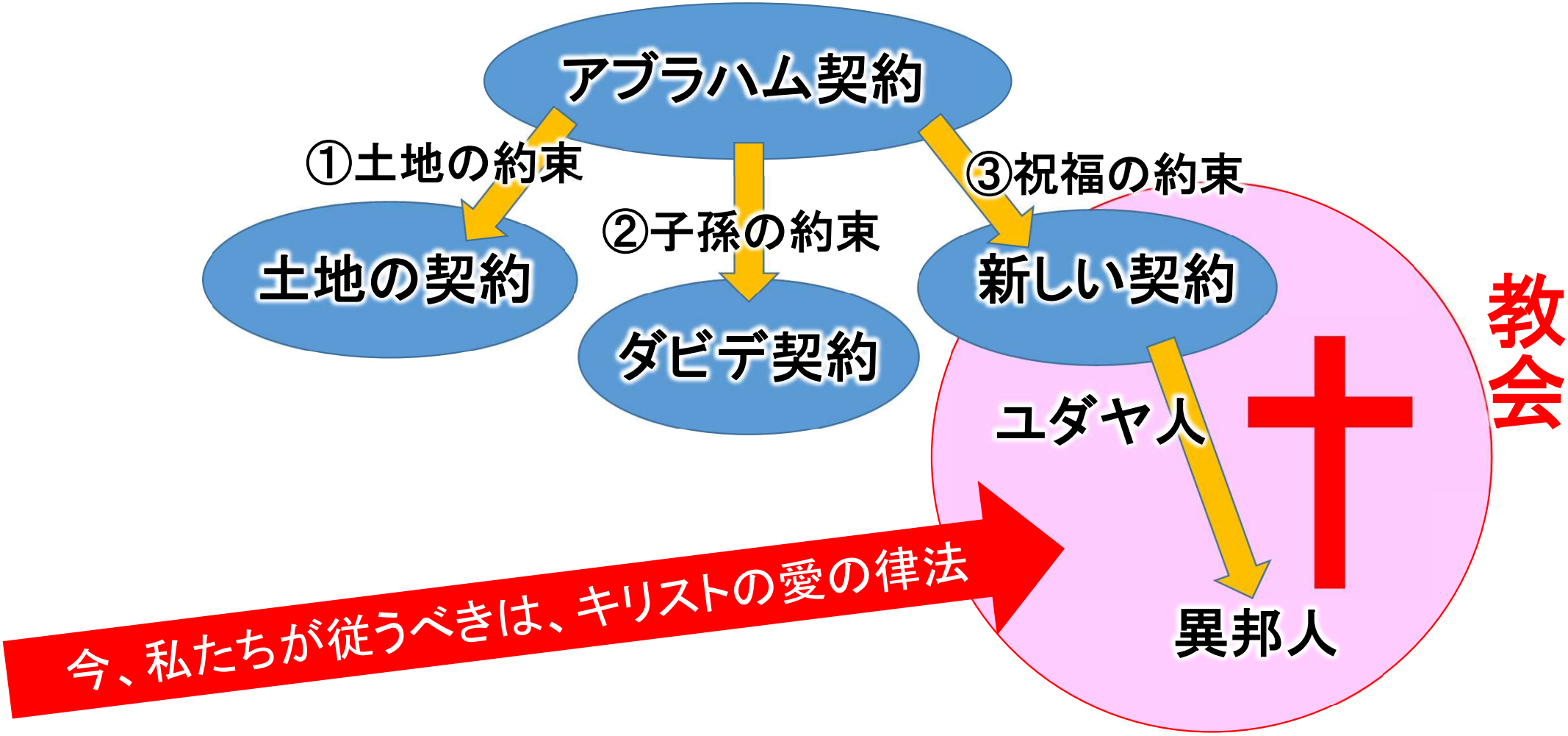
■律法に背いたイスラエルは、ついには、約束の地を追われることに。

■律法は、イスラエルの抱える重い罪の現実を突きつけ、
メシア・救い主を待ち望む思いを強く抱かせる。

【律法とは？】


アブラハム契約
①土地の約束
②子孫の約束
③祝福の約束
土地の契約
ダビデ契約
新しい契約
ユダヤ人
モーセ契約・律法
「隔ての中垣」
異邦人

【律法とは？】


アブラハム契約
①土地の約束
②子孫の約束
③祝福の約束
土地の契約
ダビデ契約
新しい契約
ユダヤ人
異邦人
教会
今、私たちが従うべきは、キリストの愛の律法

【モーセの律法と私たち】 ローマ書7:22～24

すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに、私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

■私たちの内に、「罪の律法」があって、私たちの心を支配している。

■文字に書かれた「モーセの律法」は、罪の律法に打ち勝てなかった。

➡律法は本来よいものだが、守れないのが罪人である私たち。

真実に人の罪を贖われた、救い主を信じるしかない!!

【キリストが、律法の真の目的を全うされた】 ローマ書8:1～4

　こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。
肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。
それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。

■モーセの律法では打ち勝てなかった、罪の律法を、
　キリストが、十字架の犠牲によって、打ち破ってくださった。

【律法に生きたイスラエル、キリストの律法に生きる私たち】

■イスラエルの誰も、律法を守り通せなかった。

■律法は、人間に、どうしようもない罪の存在を突きつけ、
　メシアを待ち望む思いを、人々に強く抱かせた。

■律法の目的は、人々をメシアに向けさせるためにある。

■イエス・キリストの、十字架の死と葬りと復活によって、
　律法のすべては、『成し遂げられた(ヨハ19:30)』

■今や、福音を信じたすべての者の内に、聖霊が住まわれて
いて、生きた律法として、私たちを正しく導いてくださる。

【モーセの律法と私たち】

■私たちは、信じて救われ、信じて成長していく。

■心に忍び寄る、律法主義に気をつけよう。
　自分の義・正しさで、何かをなそうとしていないだろうか？
　“ねばならない”“するべき”という自分の思いに囚われていないか？

■私たちに必要なのは、主への告白と祈り、主への信頼。
■恐れず踏み出そう。間違いは主が正し、確かに導いてくださるから。

「主よ。わたしには、できません
　しかし、聖霊によって助けてくださるならば、わたしにも、できます。」

「天のお父さま。
　わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したこと、を信(しん)じます。
　私たちが、罪のゆえに守（まも）れなかった律法（りっぽう）を
　主イエスが、なしとげてくださいました。
　わたしには、できません。しかし、主よ。
　あなたが聖霊（せいれい）によって助けてくださるなら、できます。
　信仰(しんこう)によって　救（すく）われたわたしを、
　信仰（しんこう）によって　育(はぐく)んでください。
　主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。
アーメン」

6
モーセ
聖徒伝 32
「約束の主
契約の民」
出19～24章　律法の授与・シナイ契約

【今日のアウトライン】

０. ふりかえり

Ⅰ. シナイ山での主の顕現　　19章

Ⅱ. シナイ契約・十戒　　20章1～17節

Ⅲ. まとめと適用

モーセの律法と

キリストの愛の律法

イスラエルの歩みは
すべて　アブラハムへの
神の約束から始まった

神は、
選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と　子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。

【予告された400年の奴隷の苦難】 創15:13～14

「あなた（アブラハム）の子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。」

■アブラハムへの約束通り、
　150年後、大飢饉を逃れて、一族はエジプトへ。

■400年で一大民族に成長したイスラエルは、
　多くの財をもって、エジプトを脱出することに!!

【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

イスラエルのエジプトでの400年も、
アブラハム契約のゆえに守られた!!

【三つの主な条項】

①子孫の約束

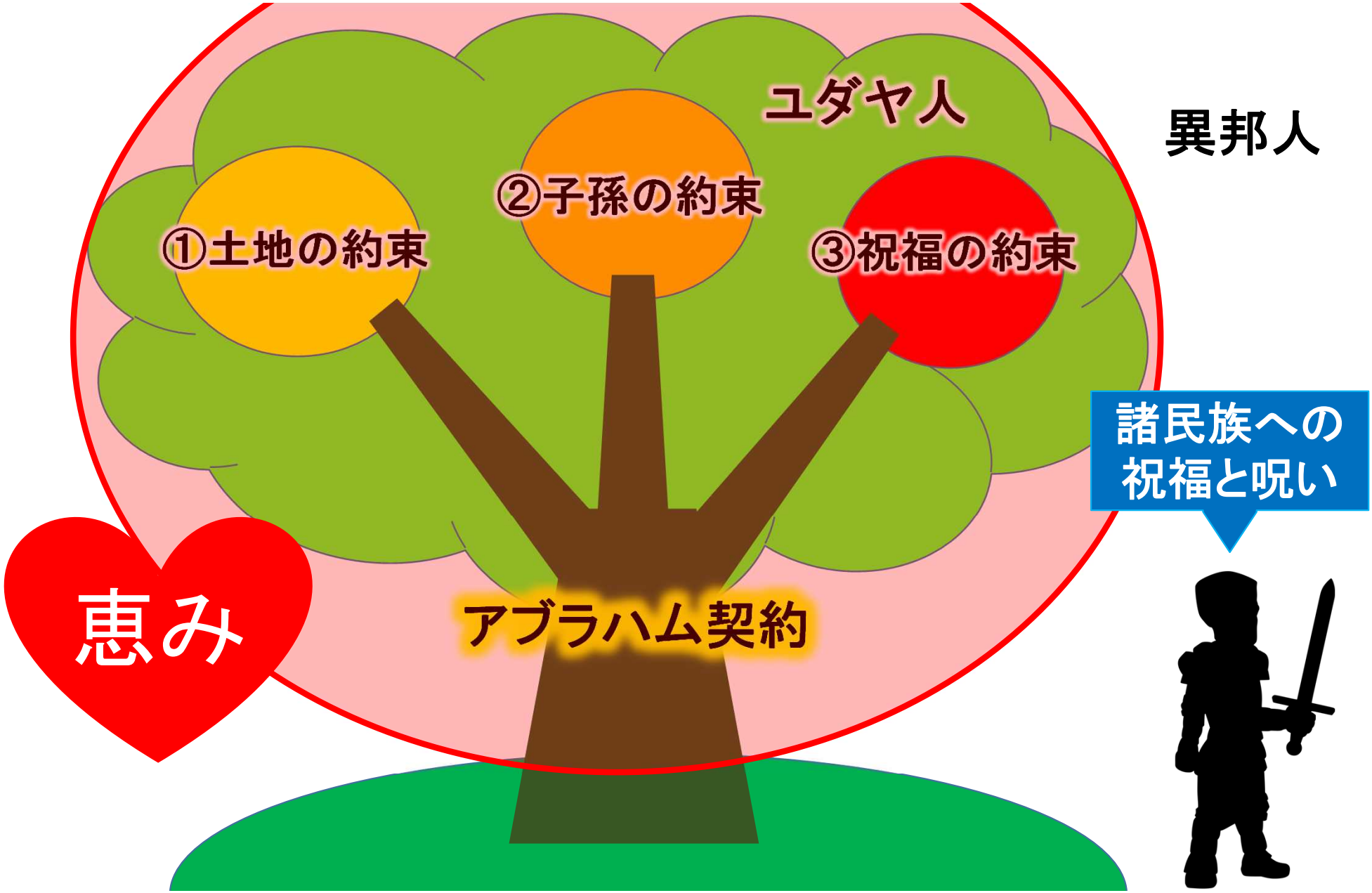
②土地の約束

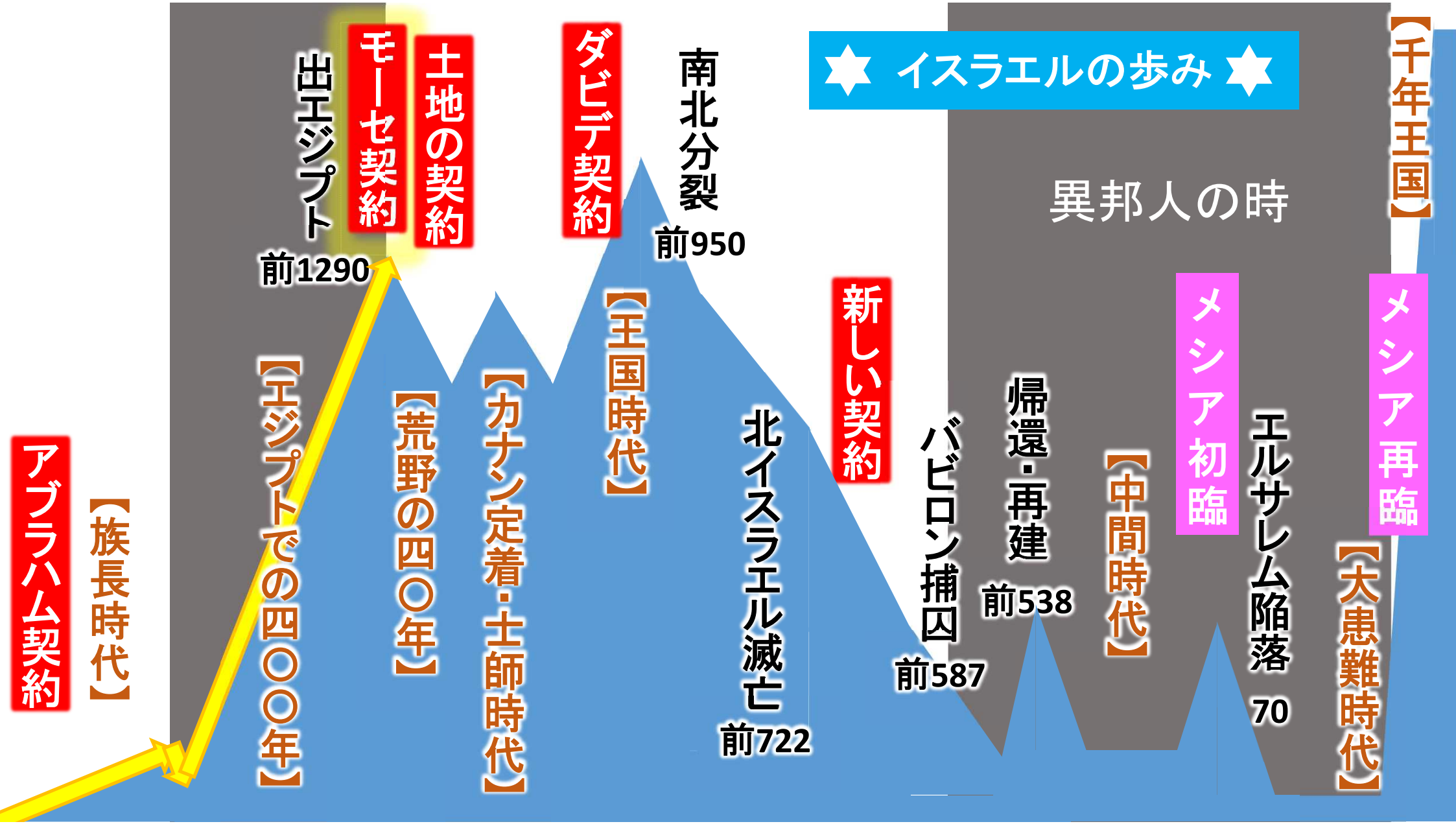
③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

※付帯条項　…祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし　…割礼

【アブラハム契約】




イスラエルの歩み
アブラハム契約
【族長時代】
【エジプトでの四〇〇年】
モーセ契約
出エジプト
前1290
土地の契約
【荒野の四〇年】
【カナン定着・士師時代】
ダビデ契約
【王国時代】
南北分裂
前950
北イスラエル滅亡
前722
新しい契約
バビロン捕囚
前587
帰還・再建
前538
【中間時代】
異邦人の時
メシア初臨
エルサレム陥落
70
【大患難時代】
メシア再臨
【千年王国】

【モーセの生涯】 誕生～40歳～80歳

■エジプトの王女に拾い上げられ、王宮で育つ。

■40歳の時、逃亡者となり、40年間を荒野で過ごす。

■80歳の時、イスラエルの指導者として召命される。

■パロとの交渉は決裂し、エジプトに災いが下る。

■イスラエルの民を連れ、エジプトを脱出。
　葦の海を渡り、いよいよ約束の地へ!!

【モーセの生涯】

0～40歳

奴隷の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に　40才

40～80歳

ミディアン人の娘チッポラと結婚

荒野での羊飼い生活

召命　80才

80～120歳

十の災い

出エジプト

シナイ契約

民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【シナイ半島の荒野の旅を経て】

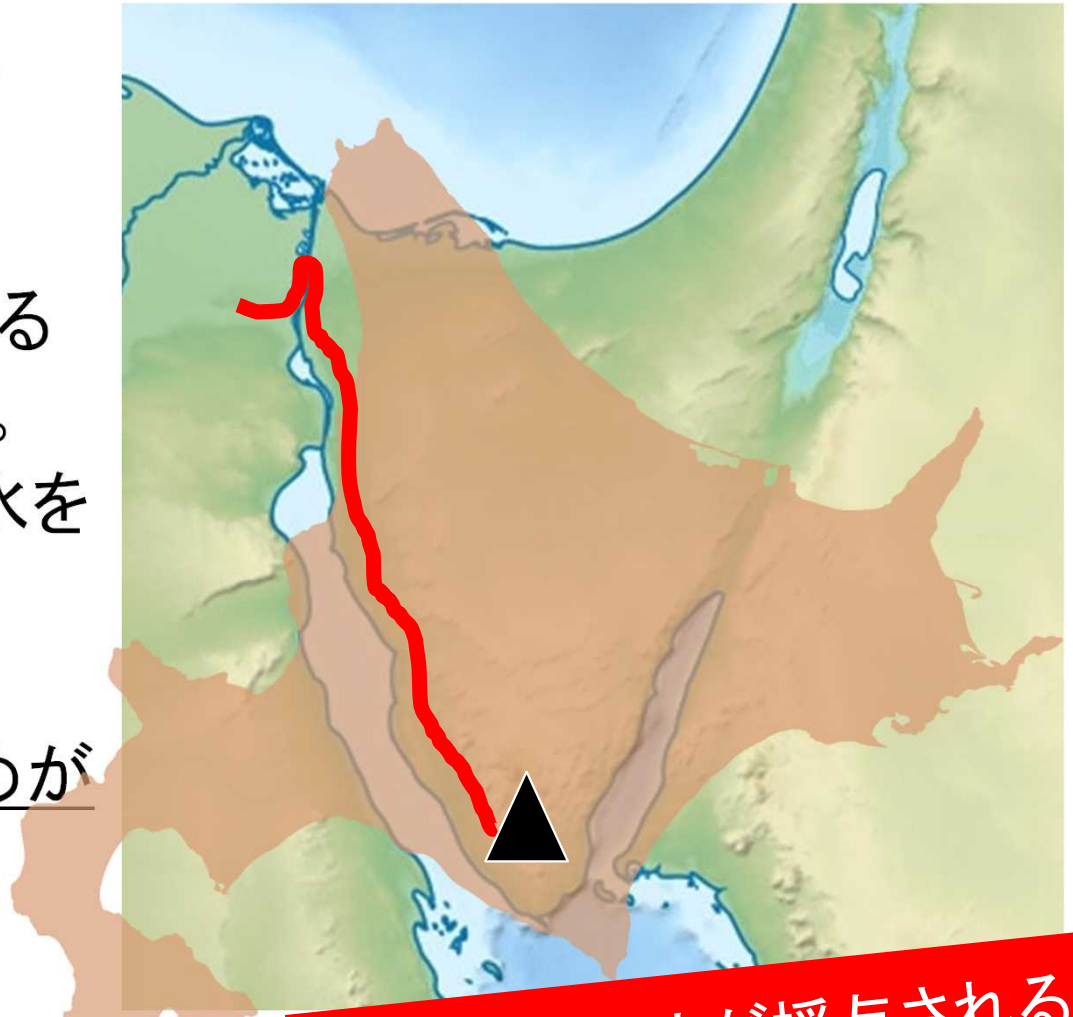
■葦の海を渡り、エジプトを脱出した
　イスラエルは、シナイの荒野へ。

■まもなく、民の不満が噴出。ことある
　ごとに、つぶやきが繰り返された。

■神は、天からパンを与え、岩から水を
　湧き出させ、民を養った。

■ミデヤン人の舅イテロは、<u>掟と定めが</u>
　<u>民には必要だ</u>とモーセに告げた。

■約3ヶ月の旅を経て、シナイ山へ。



いよいよ律法が授与される!!

Ⅰ．シナイ山での神の顕現
出エジプト記19章
ホレブ山脈・このどこかにシナイ山が!!

【シナイ山到着】 出19:1～2

エジプトの地を出たイスラエル人は、第三の月の新月*のその日に、シナイの荒野に入った。

彼らはレフィディムを旅立って、シナイの荒野に入り、その荒野で宿営した。イスラエルはそこで、山のすぐ前に宿営した。

＊第三の月の新月　➡3月1日。出発から42日。

三月目のその日(新共同訳)　➡3月15日。2ヶ月。

■「あなたが民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で、神に仕えなければならない。出3:12」

■イスラエルへの主の約束が、一つ成就した。

不平を述べ立てる民を、主が忍耐強く導かれて。

【約束の神に導かれて】 出 19:3～4

モーセは神のみもとに上って行った。【主】は山から彼を呼んで仰せられた。「あなたは、このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げよ。あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと*、また、あなたがたを鷲の翼*に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。」

＊拒絶したエジプトに、災いが下り、戦車部隊は、海に飲み込まれた。

＊鷲の翼　➡神の速やかな救出を表す。

■すべては、神の約束に基づいて成し遂げられた。

【イスラエルの存在意義と使命】 出19:5～6

「今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。

あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これが、イスラエル人にあなたの語るべきことばである。」

■神の契約が、イスラエルを特別な存在にした!!
契約に聞き従うなら、祝福が。背くならば、呪いが。

■イスラエルは、神を王とした、祭司の聖なる王国。
“神と全人類の間をとりなす祭司”こそ真の使命!!

【契約の下準備・民の意思確認】 出19:7～9

モーセは行って、民の長老たちを呼び寄せ、【主】が命じられたこれらのことばをみな、彼らの前に述べた。
すると民はみな口をそろえて答えた。「私たちは【主】が仰せられたことを、みな行います。」それでモーセは民のことばを【主】に持って帰った。
すると、【主】はモーセに仰せられた。「見よ。わたしは濃い雲の中で、あなたに臨む。わたしがあなたと語るのを民が聞き、いつまでもあなたを信じるためである。」
それからモーセは民のことばを【主】に告げた。

■モーセを仲介者に、契約の下準備がなされる。
　モーセは、弁護士か、司法書士のような役回り？！
■王である神の庇護の下、民が忠誠を誓う。
　➡“宗主契約” …王と民の間の契約。

【聖別の命令①】出19:10～11

【主】はモーセに仰せられた。「あなたは民のところに行き、きょうとあす、彼らを聖別*し、自分たちの着物を洗わせよ。

彼らは三日目のために用意をせよ。三日目には、【主】が民全体の目の前で、シナイ山に降りて来られるからである。」

■王なる神を迎える準備をするイスラエルの民。

＊聖別　➡神の所有として他から区別された。

■聖別にふさわしく、身を清め、整えた。

【聖別の命令②】出19:12～13

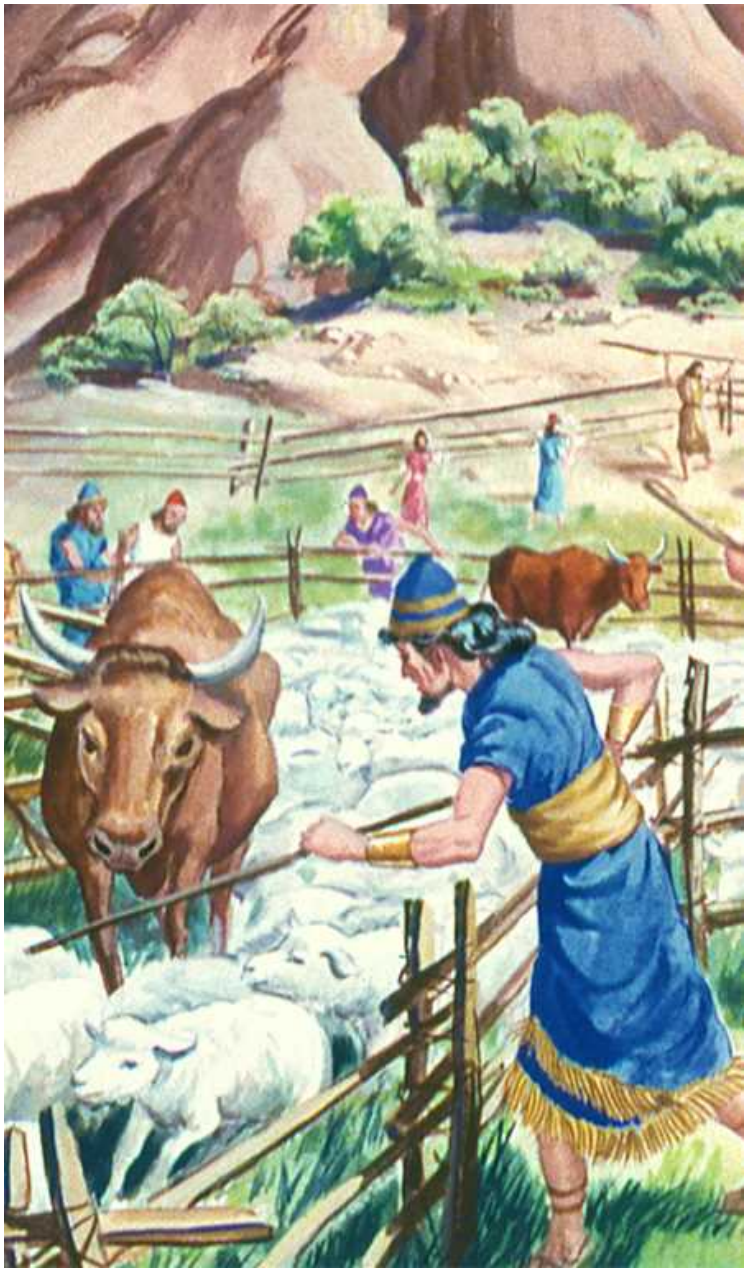
「あなたは民のために、周囲に境を設けて言え。山に登ったり、その境界に触れたりしないように注意しなさい。山に触れる者は、だれでも必ず殺されなければならない。

それに手を触れてはならない。触れる者は必ず石で打ち殺されるか、刺し殺される。獣でも、人でも、生かしておいてはならない。しかし雄羊の角が長く鳴り響くとき、彼らは山に登って来なければならない。」

■完全に聖なる神が臨在される、その山に、
　罪人は、触れるだけで死んでしまう。

■獣まで刺し殺される。➡徹底した聖別の実行!!

■イスラエルは身をきよめ、神が呼ばれるのを待った。



【神の顕現】 出19:14～16

それでモーセは山から民のところに降りて来た。そして、民を聖別し、彼らに自分たちの着物を洗わせた。モーセは民に言った。「三日目のために用意をしなさい。女に近づいてはならない。」

三日目の朝になると、山の上に雷といなずまと密雲があり、角笛の音が非常に高く鳴り響いたので、宿営の中の民はみな震え上がった。

■民は、着物を洗い、男女関係も避けた。
　意識をすべて、王なる神に向けるということ。

■これ以上ない形で、神は激しく顕現された。
　主の栄光(シャカイナグローリー)が勢揃い!!

【モーセを呼び出す神】 出19:19

角笛の音が、いよいよ高くなった。モーセは語り、神は声を出して、彼に答えられた。【主】がシナイ山の頂に降りて来られ、【主】がモーセを山の頂に呼び寄せられたので、モーセは登って行った。
【主】はモーセに仰せられた。
「下って行って、民を戒めよ。【主】を見ようと、彼らが押し破って来て、多くの者が滅びるといけない。
【主】に近づく祭司たちもまた、その身をきよめなければならない。【主】が彼らに怒りを発しないために。」

■山頂に、ひときわ激しい、神の顕現が!!
■モーセが、民の代表者として、
　王なる神の前に呼び出された。

【契約締結の準備完了】出19:23～24

モーセは【主】に申し上げた。「民はシナイ山に登ることはできません。あなたが私たちを戒められて、『山の回りに境を設け、それを聖なる地とせよ』と仰せられたからです。」

【主】は彼に仰せられた。「降りて行け。そしてあなたはアロンといっしょに登れ。祭司たちと民とは、【主】のところに登ろうとして押し破ってはならない。主が彼らに怒りを発せられないために。」

そこでモーセは民のところに降りて行き、彼らに告げた。

■やりとりを通して、神の聖さを確認させられるモーセ。

➡王を迎える準備ができているか。最終確認が!!

■こうして、契約締結の準備が完了した。

Ⅱ．十戒　　出エジプト記20章

【モーセの律法　十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約

・「十戒」がその中心　…全部で613の条項

(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

①救いの方法ではない。

②神が聖であることを示す。

③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。

④人の罪を示す

⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。

⑥人を信仰へと導く

⑦今現在は、すでに役目を終えた。

【十戒・まえがき】

20:1 それから神は　これらのことばを、
　ことごとく告げて仰せられた。
20:2「わたしは、あなたをエジプトの国、
　奴隷の家から連れ出した、あなたの神、
　【主】である。」

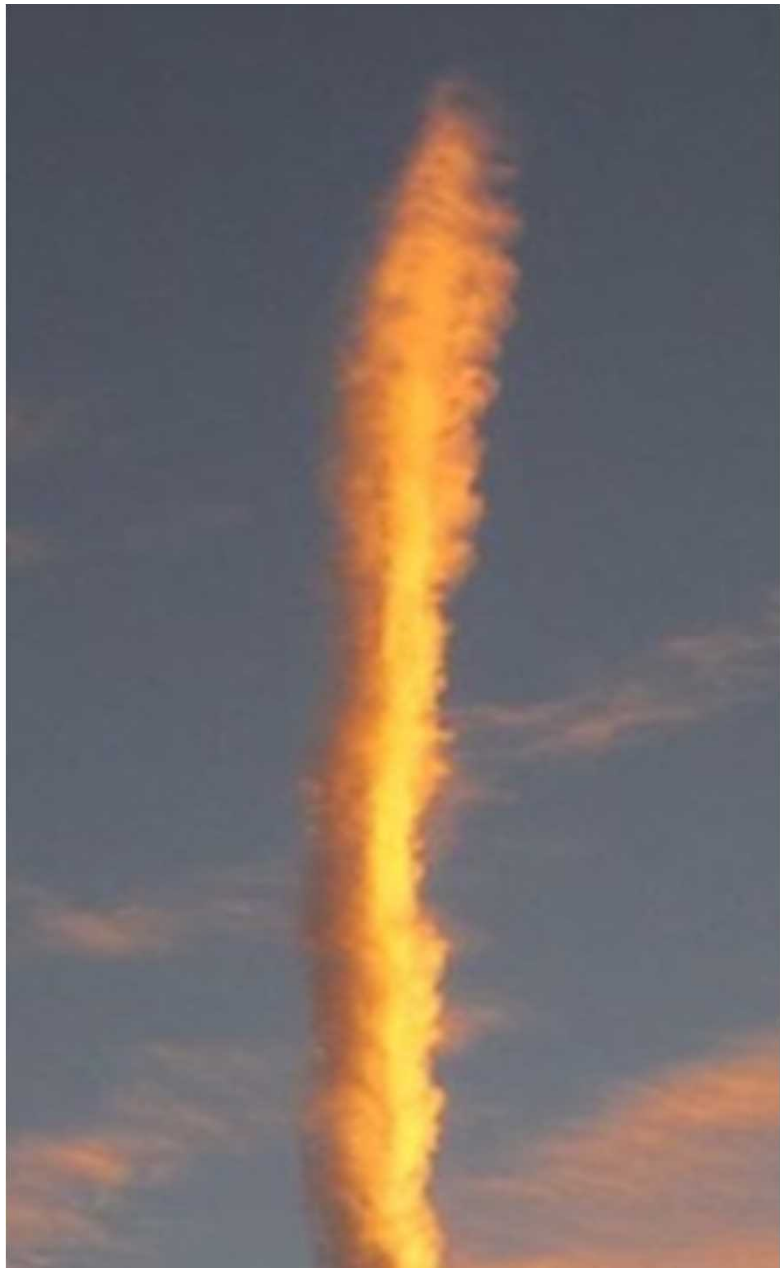
★モーセの律法は、宗主契約

■“宗主契約”　…王が、民と結ぶ契約。

●王は、民を支配し、保護し、
　　民に恩恵を与え、導く。

●民は、王に従う。

■唯一の神こそ、
　イスラエルと契約を結ぶ王だと宣言された。



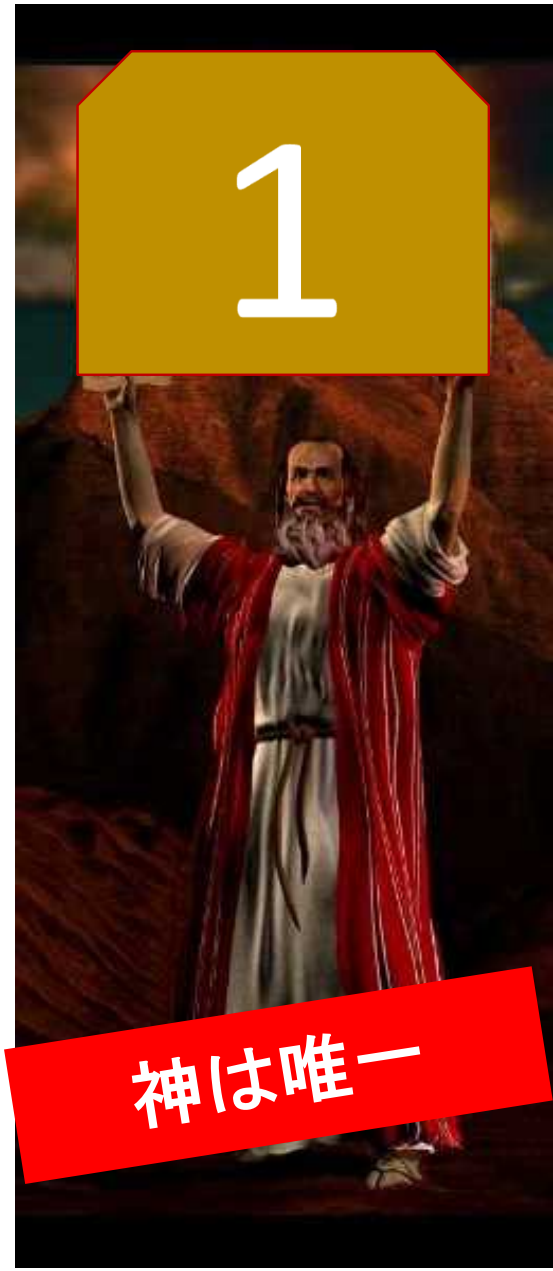
【十戒・第一戒】 出 20:3

「あなたには、わたしのほかに、
ほかの神々があってはならない。」

■“神は唯一である。” これを認めることが信仰の第一歩。

■イスラエルの民の使命は、
神が唯一であると、諸国民に示すこと。

「あなたがたはわたしの証人、—【主】の御告げ—わたしが選んだわたしのしもべである。これは、あなたがたが知って、わたしを信じ、わたしがその者であることを悟るためだ。わたしより先に造られた神はなく、わたしより後にもない。わたし、このわたしが、【主】であって、わたしのほかに救い主はいない。」 イザ 43:10～11



【十戒・第二戒①】 出20:4～5

あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。

■偶像とは、人間の欲望を形にしたもの。

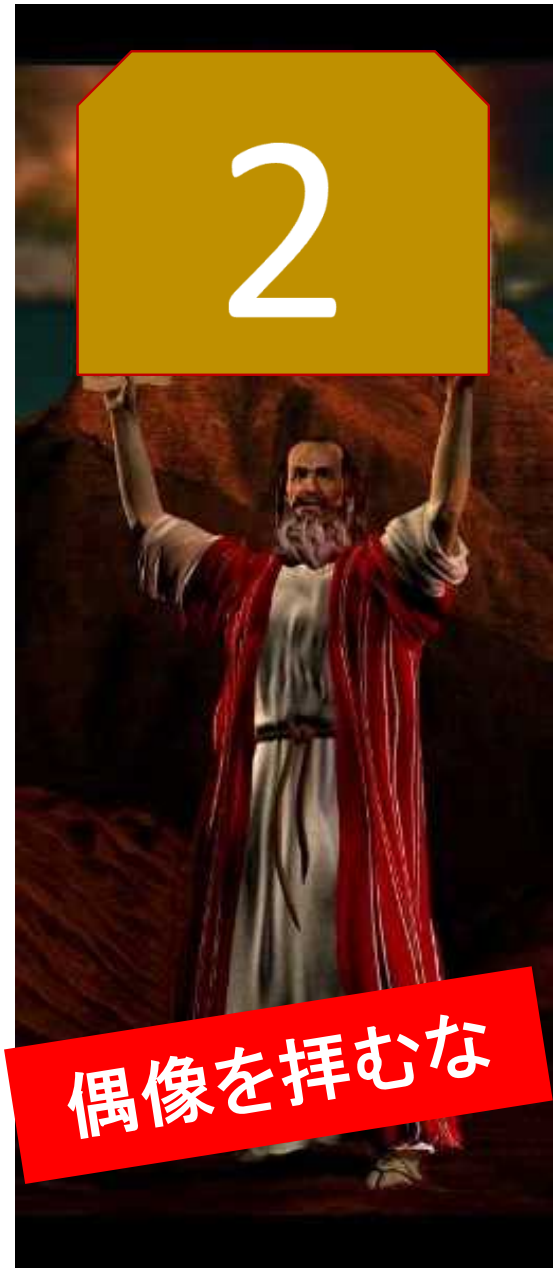
究極の偶像礼拝とは、自己中心。

➡自分の感情、感覚が絶対化される現代は？

Q：人形を作ることは、ゆるされてる？

➡礼拝の対象として、像を造ることの禁止。

例)　幕屋のケルビム、青銅の蛇…。



【十戒・第二戒②】 出20:5～6

あなたの神、【主】であるわたしは、ねたむ神*、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い*、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施す*からである。

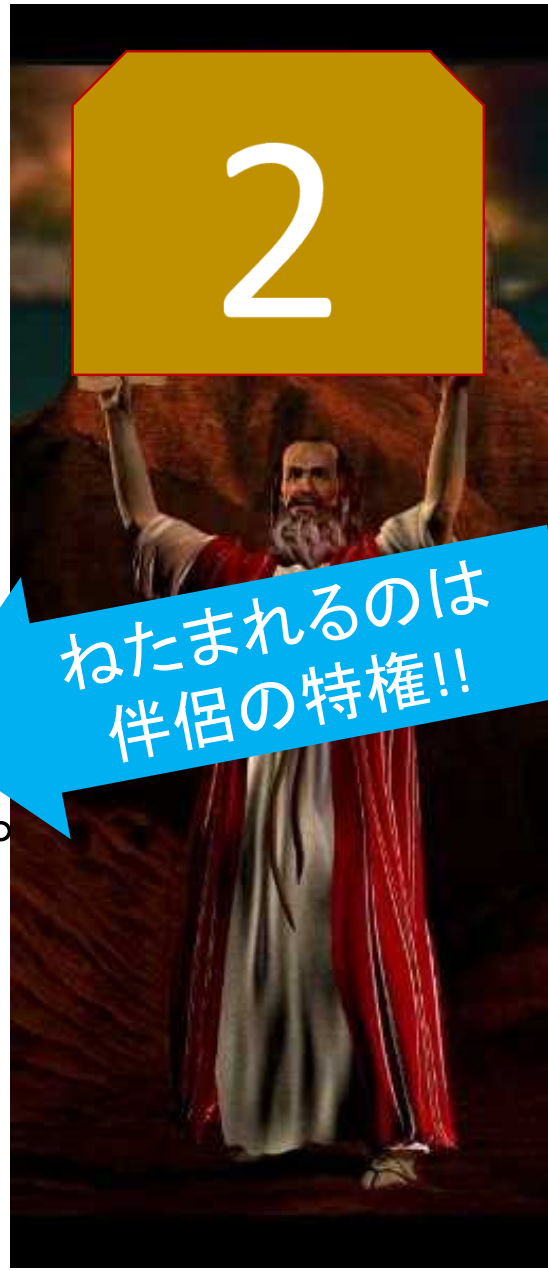
＊伴侶の不貞をねたむのは、当然の愛の行為。

➡イスラエルは神の妻。神は、民の不貞をねたむ。

＊先祖の悪影響が、ひ孫の代まで及ぶこと。

＊一方、契約による神の恵みは、永遠に続く。

愛の神は、イスラエルの不貞をねたむ!!

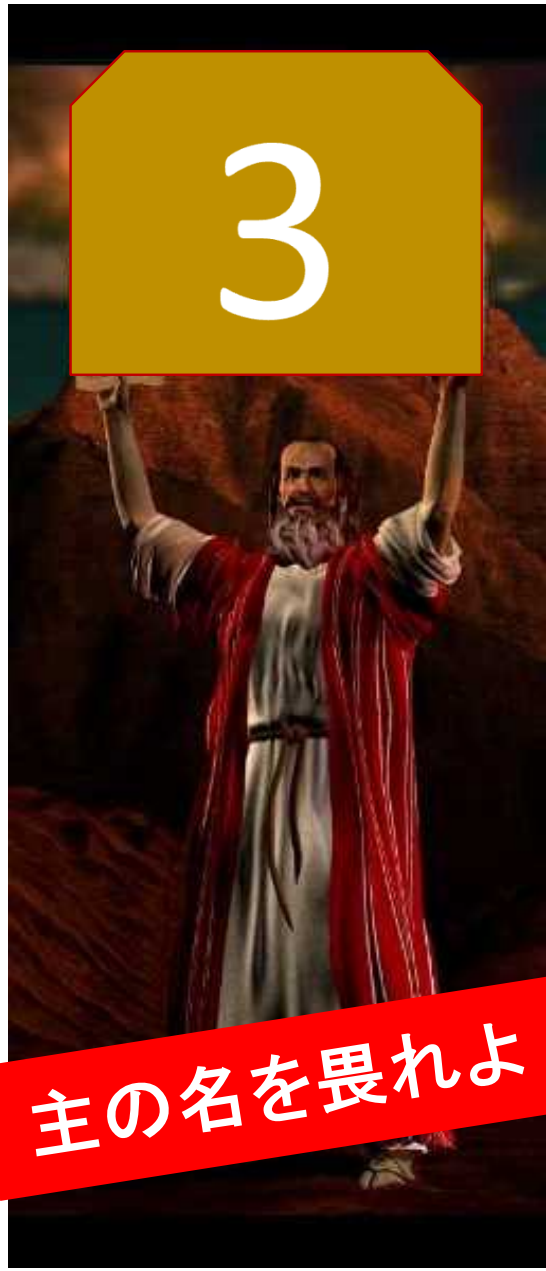


【十戒・第三戒】 出20:7

あなたは、あなたの神、【主】の御名を、
みだりに唱えてはならない。【主】は、御名をみだりに
唱える者を、罰せずにはおかない。

■神の尊厳やご性質を、引き下げてはいけない!!

Q：間違った名前と分かっていながら呼ぶことは？
『エホバ』 × → 異邦人クリスチャンの間違い。
『ヤハウェ』 ○
※アドナイ(主)の母音記号がついた“YHWH”を
そのまま読んだため、エホバになってしまった。

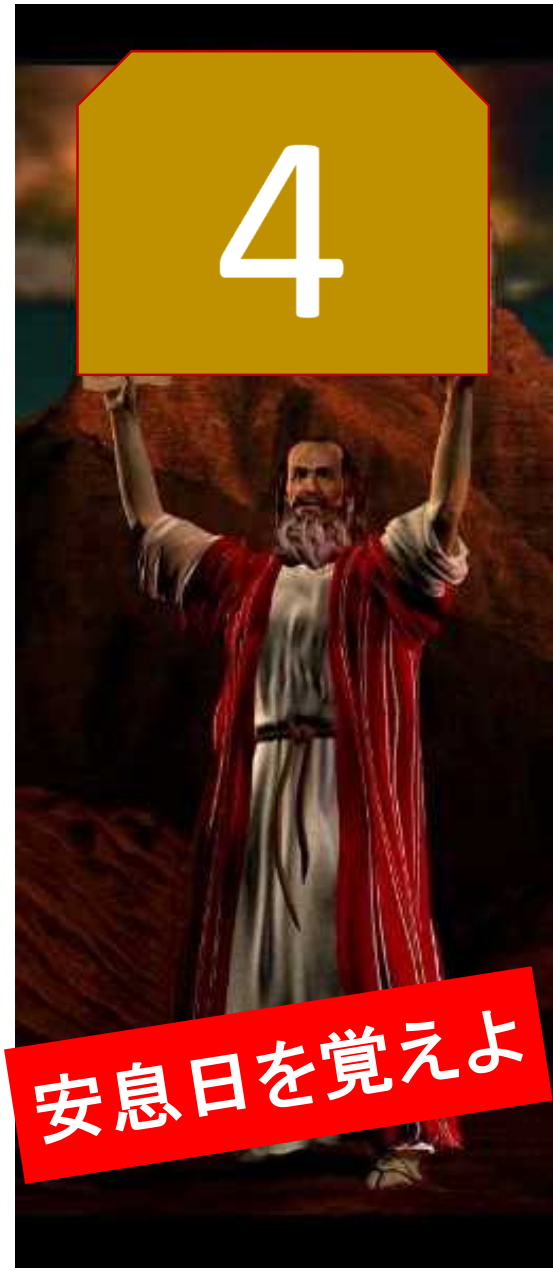


【十戒・第四戒】 出20:8
安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。

■安息日は、週の七日目。土曜(金曜・夕～土曜・夕)
★安息日は、モーセ契約のしるし
契約の民を、偶像礼拝の他民族と区別するもの。

Q：礼拝は、土曜日にささげるべき？
①安息日は、休息の日。礼拝は、祭りの時。
②モーセの律法は、現在は無効。

「ある日を、他の日に比べて、大事だと考える人もいますが、どの日も同じだと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。」 ロマ14:5



【十戒・第五戒】 出20:12

あなたの父と母を敬え。あなたの神、【主】が与えようとしておられる地で、あなたの齢が長くなるためである。

Q：イスラエルにとって、「父母を敬う」とは？

■父母を敬う ➡ 先祖が、唯一の神と契約を結び
父母が、その契約を受け継いだゆえに。

■父母に従う ➡ 神の立てた秩序と権威に従うこと。
謙遜を学ぶこと。

■齢が長くなる ➡イスラエルが、約束の土地で
平安に、長く住むこと。

■権威に対する、正しい恐れを持っているか？
例) 福島瑞穂議員…「目上」は、おかしい

【十戒・第六戒】 出20:13
殺してはならない。

■個人的理由で、意図的に、故意に殺すことの禁止。
➡命の尊厳を教えたもの。

■偶像礼拝や姦淫、重大な律法の戒めを破った者に、
モーセの律法は、死刑を定めている。

■神の命じる聖なる戦いにおける殺人も含まれない。

Q:第六戒は、死刑廃止や戦争反対の根拠になる？

【十戒・第七戒】 出20:14
姦淫してはならない。

■不貞だけでなく、同性間の性行為、近親相姦など、
正当な婚姻外の、すべての性的罪を含む。

【十戒・第八戒】 出20:15
盗んではならない。

■私有財産の尊厳を教えたもの
■盗むことは、自分には、思い通り、好き勝手に生きる
権利があるという究極の利己主義、自己中心。

【十戒・第九戒】 出20:16

あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。

■真実の大切さを教えたもの。

■個人的な嘘ではなく、隣人に対する偽証のこと。

➡法廷での偽証から、偽りの噂話まで。

例) フェイクニュースも偽証!!

■真実を貶め、偽ることは、
真実の方である神を貶め、偽ることにつながる!!

真実が大切なのは、神が真実の方だから!!

【十戒・第十戒】 出20:17

あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

■「貪欲」という、人の心にある罪の根っこの問題。

■“神はすべての必要を満たしてくださる”という、神への信頼・信仰を否定するのが、貪欲の罪。

■貪欲を禁じた、第十回を守ることができれば、十戒すべてを守ることができる。

Ⅳ. まとめと適用

モーセの律法と
キリストの愛の律法

【モーセの律法とは何か？　何のために与えられたのか？】

■律法は、イスラエルの養育係。幼子を＿アメ＿と＿ムチ＿で導くもの。
(祝福)　(呪い)

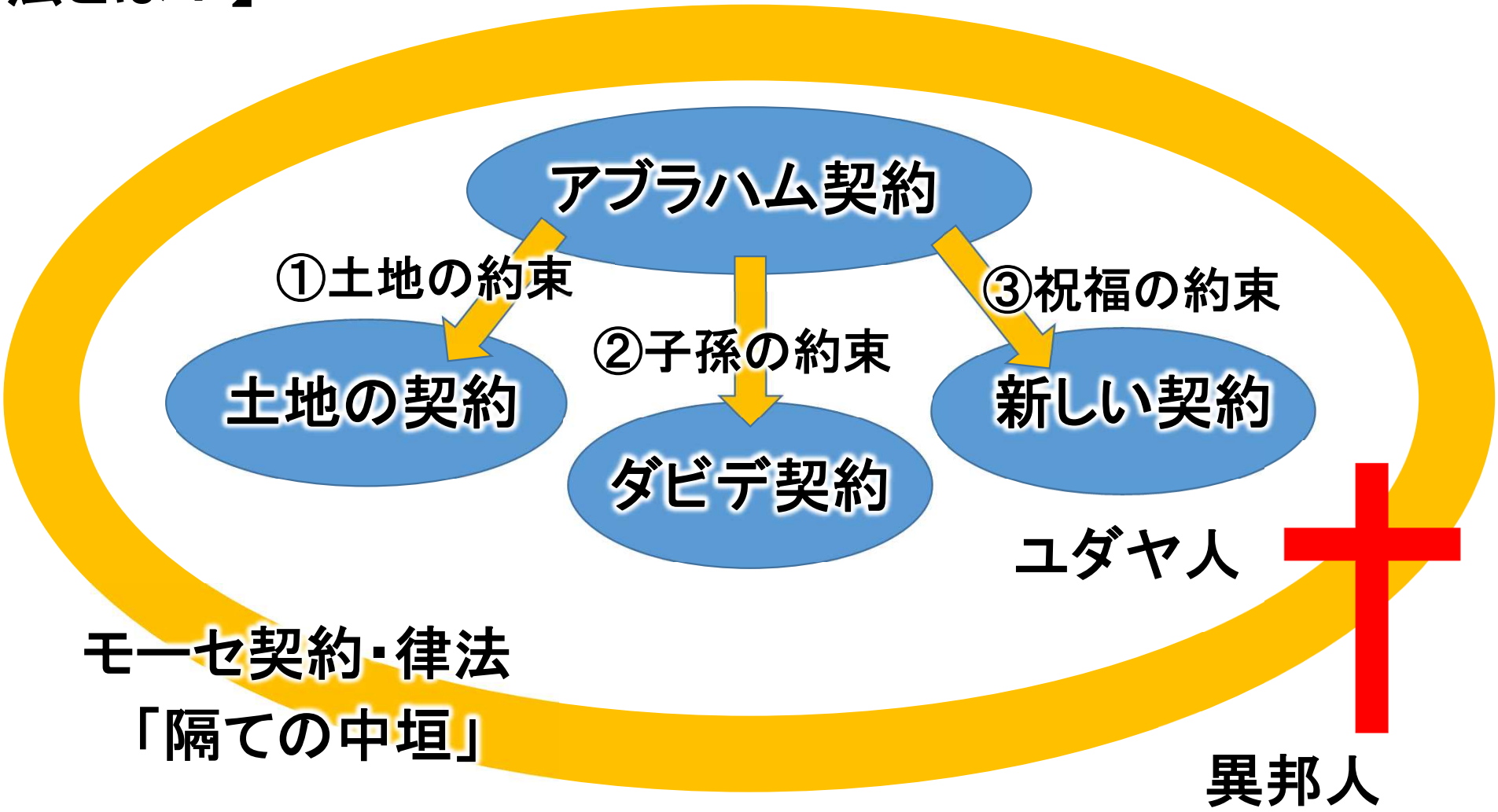
■神によって奴隷から救い出されたイスラエルが、
どう歩むべきかを示し、信仰の成長を促すもの。

■しかし、イスラエルは、律法を守り通すことができなかった。

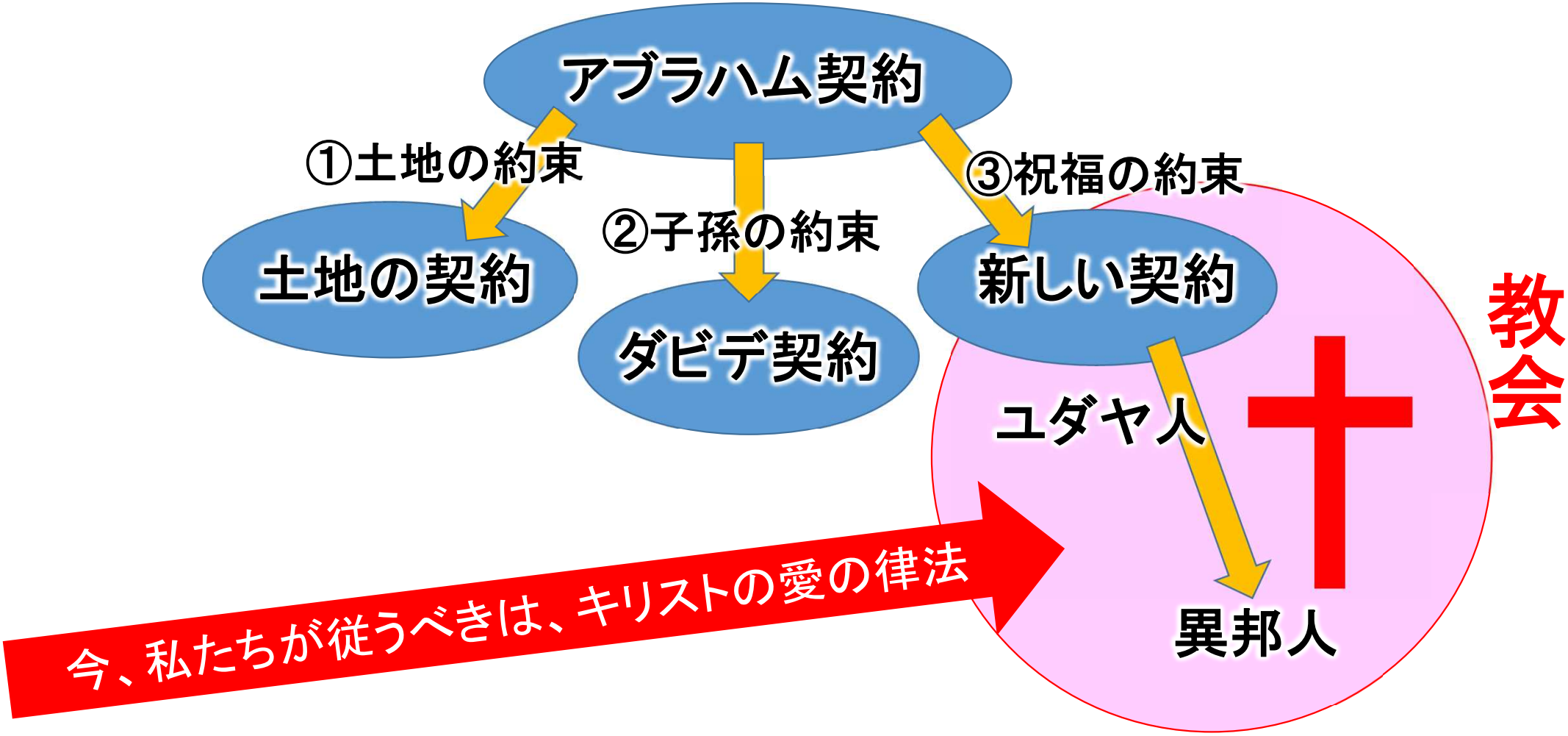
■律法に背いたイスラエルは、ついには、約束の地を追われることに。

■律法は、イスラエルの抱える重い罪の現実を突きつけ、
メシア・救い主を待ち望む思いを強く抱かせる。

【律法とは？】


アブラハム契約
①土地の約束
②子孫の約束
③祝福の約束
土地の契約
ダビデ契約
新しい契約
ユダヤ人
モーセ契約・律法
「隔ての中垣」
異邦人

【律法とは？】


アブラハム契約
①土地の約束
②子孫の約束
③祝福の約束
土地の契約
ダビデ契約
新しい契約
ユダヤ人
異邦人
教会
今、私たちが従うべきは、キリストの愛の律法

【モーセの律法と私たち】 ローマ書7:22～24

すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに、私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

■私たちの内に、「罪の律法」があって、私たちの心を支配している。

■文字に書かれた「モーセの律法」は、罪の律法に打ち勝てなかった。

➡律法は本来よいものだが、守れないのが罪人である私たち。

真実に人の罪を贖われた、救い主を信じるしかない!!

【キリストが、律法の真の目的を全うされた】 ローマ書8:1～4

　こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。
肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。
それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。

■モーセの律法では打ち勝てなかった、罪の律法を、
　キリストが、十字架の犠牲によって、打ち破ってくださった。

【律法に生きたイスラエル、キリストの律法に生きる私たち】

■イスラエルの誰も、律法を守り通せなかった。

■律法は、人間に、どうしようもない罪の存在を突きつけ、
　メシアを待ち望む思いを、人々に強く抱かせた。

■律法の目的は、人々をメシアに向けさせるためにある。

■イエス・キリストの、十字架の死と葬りと復活によって、
　律法のすべては、『成し遂げられた(ヨハ19:30)』

■今や、福音を信じたすべての者の内に、聖霊が住まわれて
いて、生きた律法として、私たちを正しく導いてくださる。

【モーセの律法と私たち】

■私たちは、信じて救われ、信じて成長していく。

■心に忍び寄る、律法主義に気をつけよう。
　自分の義・正しさで、何かをなそうとしていないだろうか？
　“ねばならない”“するべき”という自分の思いに囚われていないか？

■私たちに必要なのは、主への告白と祈り、主への信頼。
■恐れず踏み出そう。間違いは主が正し、確かに導いてくださるから。

「主よ。わたしには、できません
　しかし、聖霊によって助けてくださるならば、わたしにも、できます。」

「天のお父さま。
　わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したこと、を信(しん)じます。
　私たちが、罪のゆえに守（まも）れなかった律法（りっぽう）を
　主イエスが、なしとげてくださいました。
　わたしには、できません。しかし、主よ。
　あなたが聖霊（せいれい）によって助けてくださるなら、できます。
　信仰(しんこう)によって　救（すく）われたわたしを、
　信仰（しんこう）によって　育(はぐく)んでください。
　主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。
アーメン」

6
モーセ
聖徒伝 32
「約束の主
契約の民」
出19～24章　律法の授与・シナイ契約

【今日のアウトライン】

０. ふりかえり

Ⅰ. シナイ山での主の顕現　　19章

Ⅱ. シナイ契約・十戒　　20章1～17節

Ⅲ. まとめと適用

モーセの律法と

キリストの愛の律法

イスラエルの歩みは
すべて　アブラハムへの
神の約束から始まった

神は、
選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と　子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。

【予告された400年の奴隷の苦難】 創15:13～14

「あなた（アブラハム）の子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。」

■アブラハムへの約束通り、
　150年後、大飢饉を逃れて、一族はエジプトへ。

■400年で一大民族に成長したイスラエルは、
　多くの財をもって、エジプトを脱出することに!!

【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

イスラエルのエジプトでの400年も、
アブラハム契約のゆえに守られた!!

【三つの主な条項】

①子孫の約束

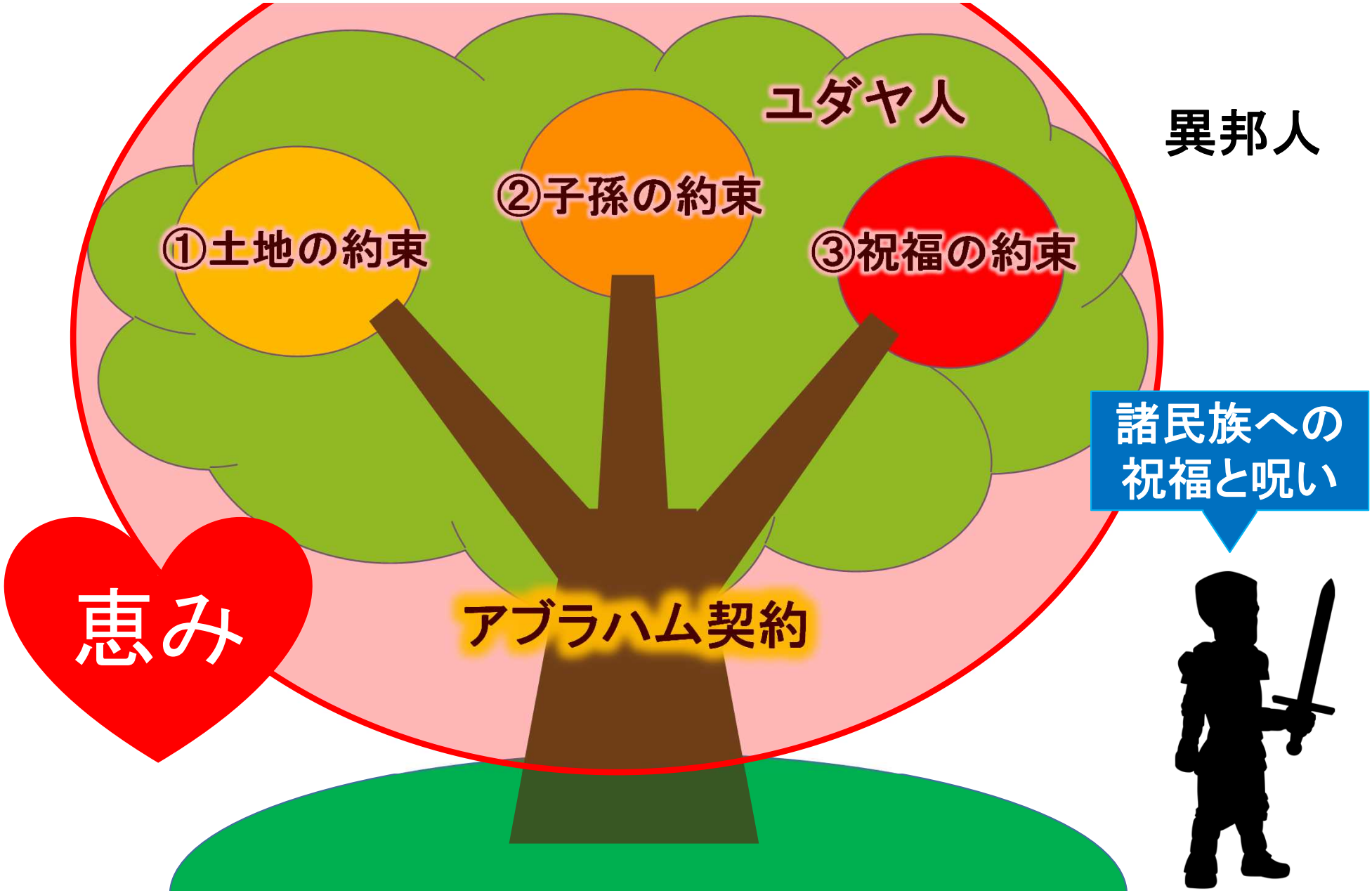
②土地の約束

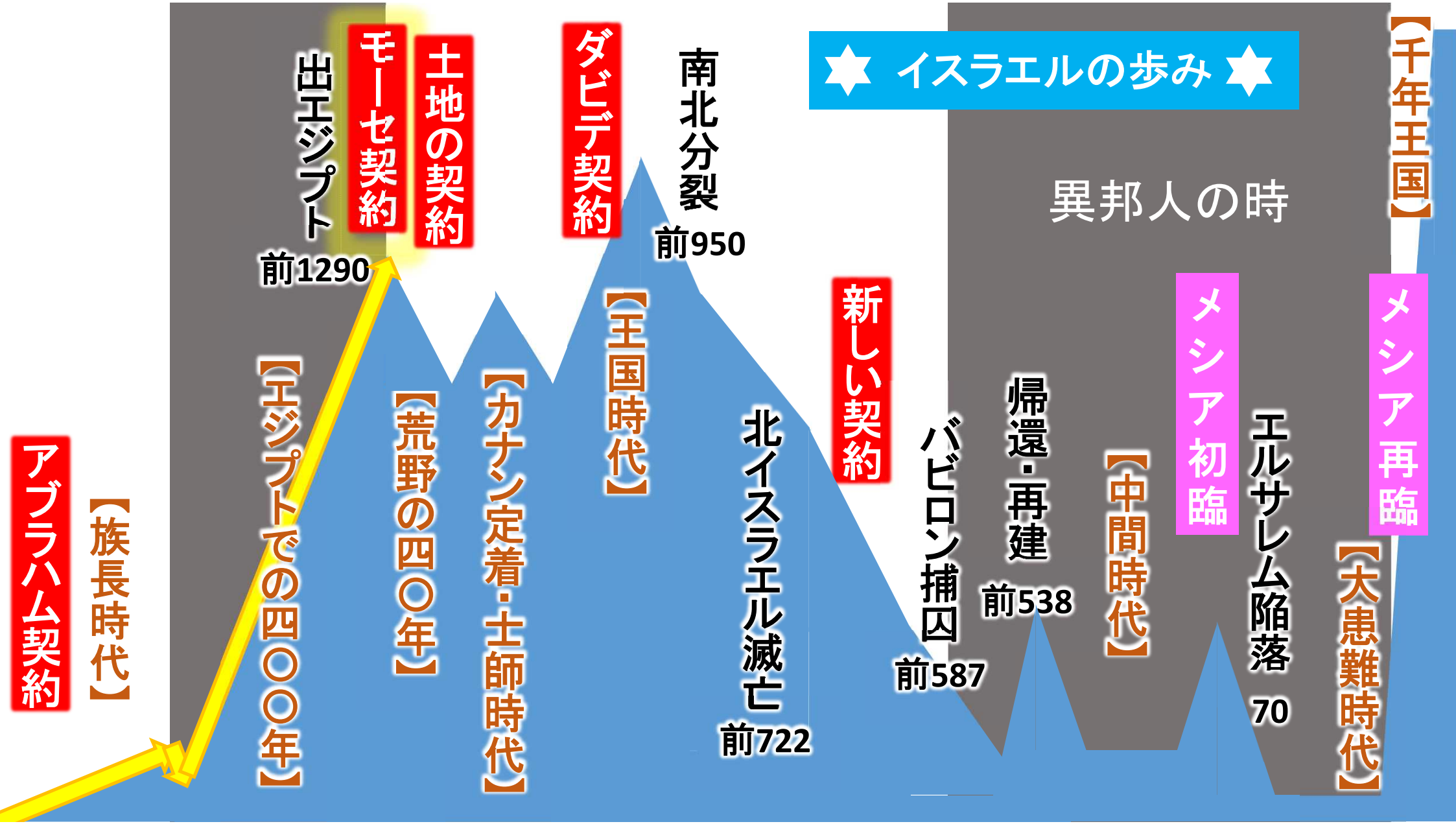
③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

※付帯条項　…祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし　…割礼

【アブラハム契約】




イスラエルの歩み
アブラハム契約
【族長時代】
【エジプトでの四〇〇年】
モーセ契約
出エジプト
前1290
土地の契約
【荒野の四〇年】
【カナン定着・士師時代】
ダビデ契約
【王国時代】
南北分裂
前950
北イスラエル滅亡
前722
新しい契約
バビロン捕囚
前587
帰還・再建
前538
【中間時代】
異邦人の時
メシア初臨
エルサレム陥落
70
【大患難時代】
メシア再臨
【千年王国】

【モーセの生涯】 誕生～40歳～80歳

■エジプトの王女に拾い上げられ、王宮で育つ。

■40歳の時、逃亡者となり、40年間を荒野で過ごす。

■80歳の時、イスラエルの指導者として召命される。

■パロとの交渉は決裂し、エジプトに災いが下る。

■イスラエルの民を連れ、エジプトを脱出。
　葦の海を渡り、いよいよ約束の地へ!!

【モーセの生涯】

0～40歳

奴隷の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に　40才

40～80歳

ミディアン人の娘チッポラと結婚

荒野での羊飼い生活

召命　80才

80～120歳

十の災い

出エジプト

シナイ契約

民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【シナイ半島の荒野の旅を経て】

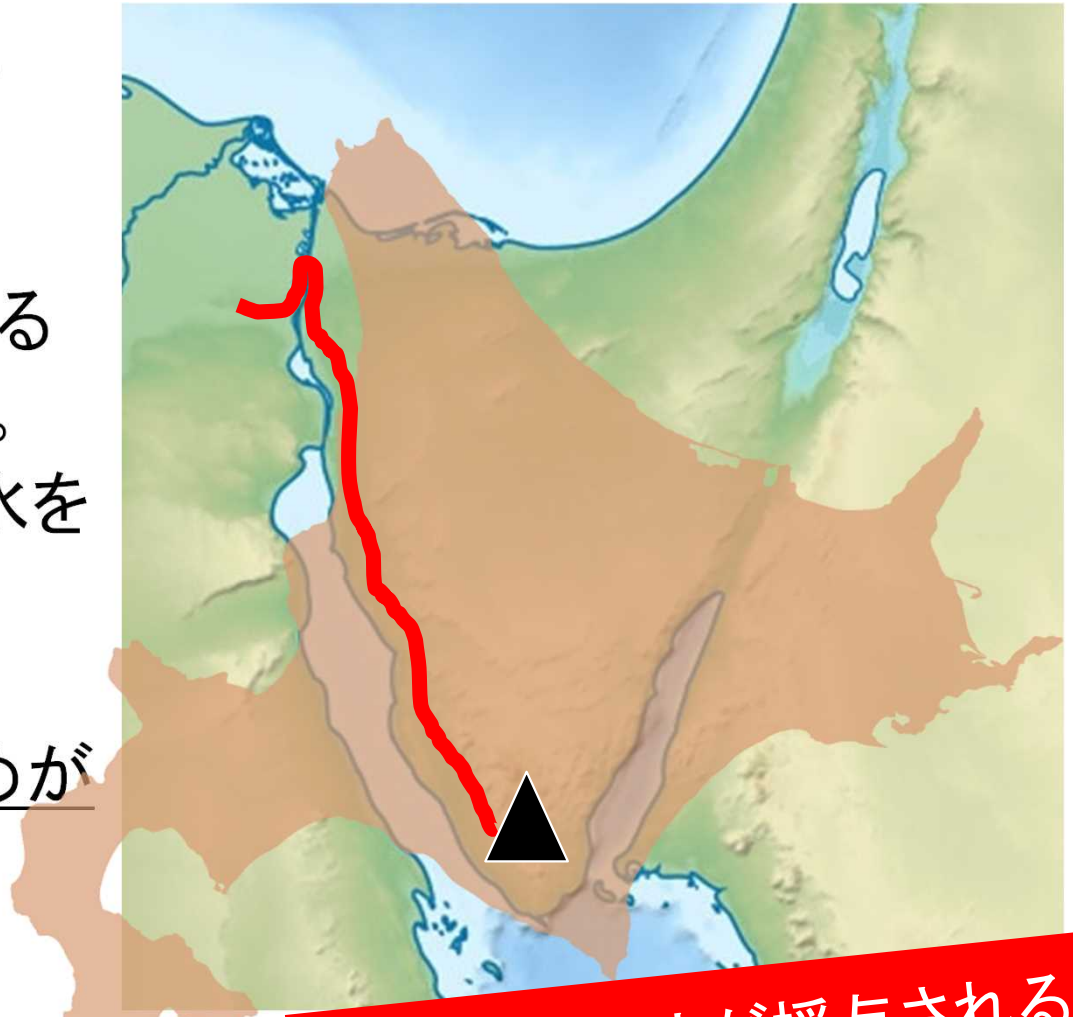
■葦の海を渡り、エジプトを脱出した
　イスラエルは、シナイの荒野へ。

■まもなく、民の不満が噴出。ことある
　ごとに、つぶやきが繰り返された。

■神は、天からパンを与え、岩から水を
　湧き出させ、民を養った。

■ミデヤン人の舅イテロは、<u>掟と定めが</u>
　<u>民には必要だ</u>とモーセに告げた。

■約3ヶ月の旅を経て、シナイ山へ。



いよいよ律法が授与される!!

Ⅰ．シナイ山での神の顕現
出エジプト記19章
ホレブ山脈・このどこかにシナイ山が!!

【シナイ山到着】 出19:1～2

エジプトの地を出たイスラエル人は、第三の月の新月*のその日に、シナイの荒野に入った。

彼らはレフィディムを旅立って、シナイの荒野に入り、その荒野で宿営した。イスラエルはそこで、山のすぐ前に宿営した。

＊第三の月の新月　➡3月1日。出発から42日。

三月目のその日(新共同訳)　➡3月15日。2ヶ月。

■「あなたが民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で、神に仕えなければならない。出3:12」

■イスラエルへの主の約束が、一つ成就した。

不平を述べ立てる民を、主が忍耐強く導かれて。

【約束の神に導かれて】 出 19:3～4

モーセは神のみもとに上って行った。【主】は山から彼を呼んで仰せられた。「あなたは、このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げよ。あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと*、また、あなたがたを鷲の翼*に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。」

＊拒絶したエジプトに、災いが下り、戦車部隊は、海に飲み込まれた。

＊鷲の翼　➡神の速やかな救出を表す。

■すべては、神の約束に基づいて成し遂げられた。

【イスラエルの存在意義と使命】 出19:5～6

「今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。

あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これが、イスラエル人にあなたの語るべきことばである。」

■神の契約が、イスラエルを特別な存在にした!!
契約に聞き従うなら、祝福が。背くならば、呪いが。

■イスラエルは、神を王とした、祭司の聖なる王国。
“神と全人類の間をとりなす祭司”こそ真の使命!!

【契約の下準備・民の意思確認】 出19:7～9

モーセは行って、民の長老たちを呼び寄せ、【主】が命じられたこれらのことばをみな、彼らの前に述べた。
すると民はみな口をそろえて答えた。「私たちは【主】が仰せられたことを、みな行います。」それでモーセは民のことばを【主】に持って帰った。
すると、【主】はモーセに仰せられた。「見よ。わたしは濃い雲の中で、あなたに臨む。わたしがあなたと語るのを民が聞き、いつまでもあなたを信じるためである。」
それからモーセは民のことばを【主】に告げた。

■モーセを仲介者に、契約の下準備がなされる。
　モーセは、弁護士か、司法書士のような役回り？！
■王である神の庇護の下、民が忠誠を誓う。
　➡“宗主契約” …王と民の間の契約。

【聖別の命令①】出19:10～11

【主】はモーセに仰せられた。「あなたは民のところに行き、きょうとあす、彼らを聖別*し、自分たちの着物を洗わせよ。

彼らは三日目のために用意をせよ。三日目には、【主】が民全体の目の前で、シナイ山に降りて来られるからである。」

■王なる神を迎える準備をするイスラエルの民。

＊聖別　➡神の所有として他から区別された。

■聖別にふさわしく、身を清め、整えた。

【聖別の命令②】出19:12～13

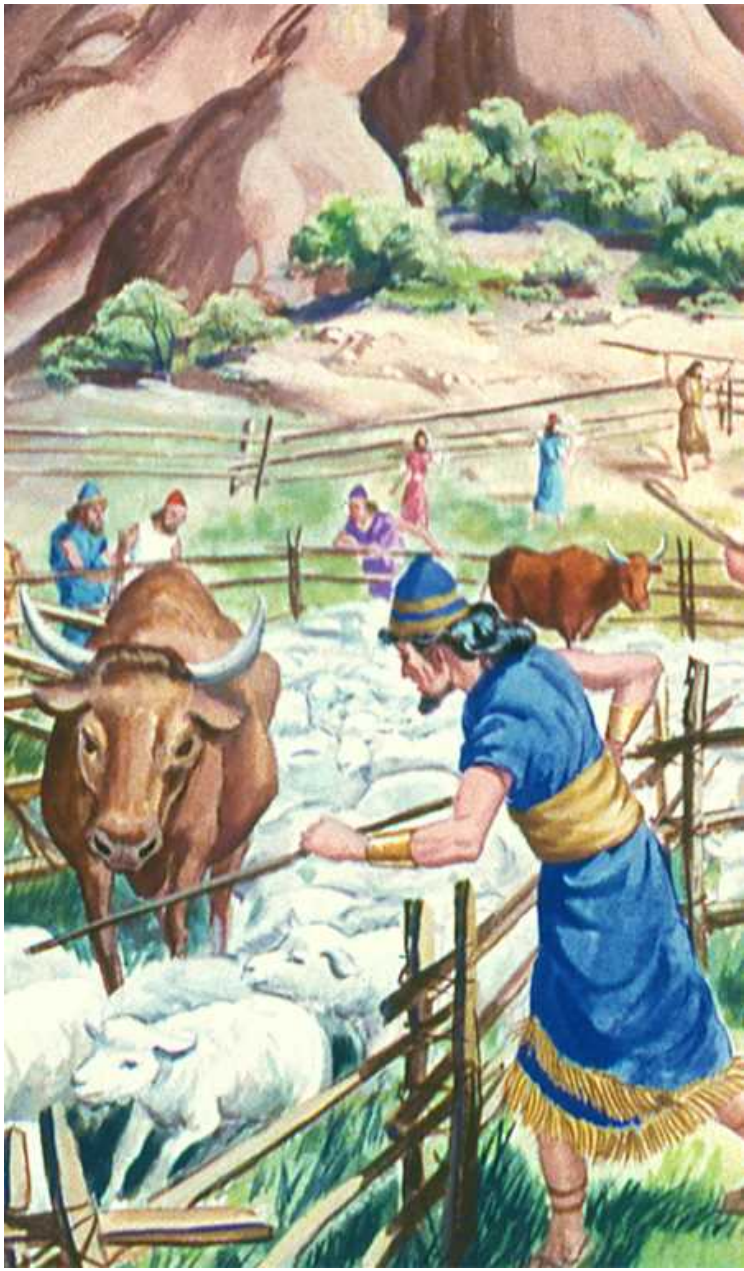
「あなたは民のために、周囲に境を設けて言え。山に登ったり、その境界に触れたりしないように注意しなさい。山に触れる者は、だれでも必ず殺されなければならない。

それに手を触れてはならない。触れる者は必ず石で打ち殺されるか、刺し殺される。獣でも、人でも、生かしておいてはならない。しかし雄羊の角が長く鳴り響くとき、彼らは山に登って来なければならない。」

■完全に聖なる神が臨在される、その山に、
　罪人は、触れるだけで死んでしまう。

■獣まで刺し殺される。➡徹底した聖別の実行!!

■イスラエルは身をきよめ、神が呼ばれるのを待った。



【神の顕現】 出19:14～16

それでモーセは山から民のところに降りて来た。そして、民を聖別し、彼らに自分たちの着物を洗わせた。モーセは民に言った。「三日目のために用意をしなさい。女に近づいてはならない。」

三日目の朝になると、山の上に雷といなずまと密雲があり、角笛の音が非常に高く鳴り響いたので、宿営の中の民はみな震え上がった。

■民は、着物を洗い、男女関係も避けた。
　意識をすべて、王なる神に向けるということ。

■これ以上ない形で、神は激しく顕現された。
　主の栄光(シャカイナグローリー)が勢揃い!!

【モーセを呼び出す神】 出19:19

角笛の音が、いよいよ高くなった。モーセは語り、神は声を出して、彼に答えられた。【主】がシナイ山の頂に降りて来られ、【主】がモーセを山の頂に呼び寄せられたので、モーセは登って行った。
【主】はモーセに仰せられた。
「下って行って、民を戒めよ。【主】を見ようと、彼らが押し破って来て、多くの者が滅びるといけない。
【主】に近づく祭司たちもまた、その身をきよめなければならない。【主】が彼らに怒りを発しないために。」

■山頂に、ひときわ激しい、神の顕現が!!
■モーセが、民の代表者として、
　王なる神の前に呼び出された。

【契約締結の準備完了】出19:23～24

モーセは【主】に申し上げた。「民はシナイ山に登ることはできません。あなたが私たちを戒められて、『山の回りに境を設け、それを聖なる地とせよ』と仰せられたからです。」

【主】は彼に仰せられた。「降りて行け。そしてあなたはアロンといっしょに登れ。祭司たちと民とは、【主】のところに登ろうとして押し破ってはならない。主が彼らに怒りを発せられないために。」

そこでモーセは民のところに降りて行き、彼らに告げた。

■やりとりを通して、神の聖さを確認させられるモーセ。

➡王を迎える準備ができているか。最終確認が!!

■こうして、契約締結の準備が完了した。

Ⅱ．十戒　　出エジプト記20章

【モーセの律法　十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約

・「十戒」がその中心　…全部で613の条項

(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

①救いの方法ではない。

②神が聖であることを示す。

③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。

④人の罪を示す

⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。

⑥人を信仰へと導く

⑦今現在は、すでに役目を終えた。

【十戒・まえがき】

20:1 それから神は　これらのことばを、
　ことごとく告げて仰せられた。
20:2「わたしは、あなたをエジプトの国、
　奴隷の家から連れ出した、あなたの神、
　【主】である。」

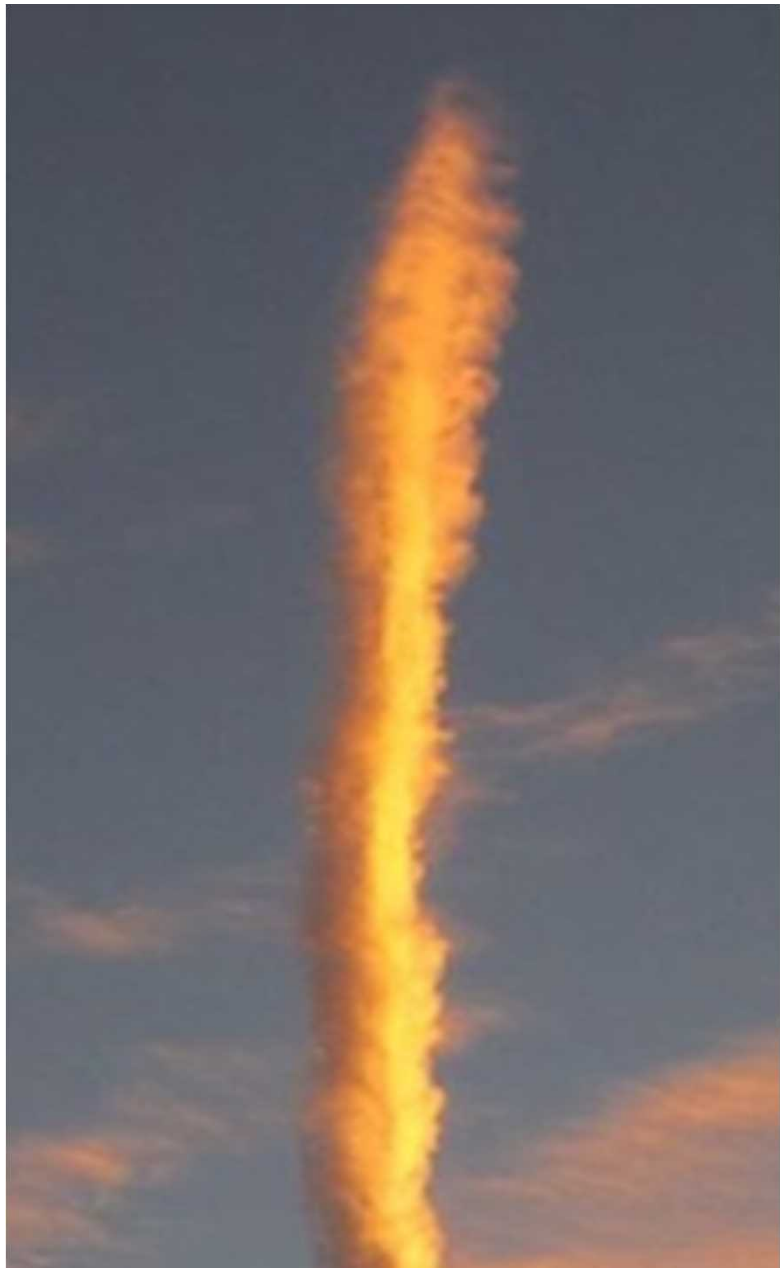
★モーセの律法は、宗主契約

■“宗主契約”　…王が、民と結ぶ契約。

●王は、民を支配し、保護し、
　　民に恩恵を与え、導く。

●民は、王に従う。

■唯一の神こそ、
　イスラエルと契約を結ぶ王だと宣言された。



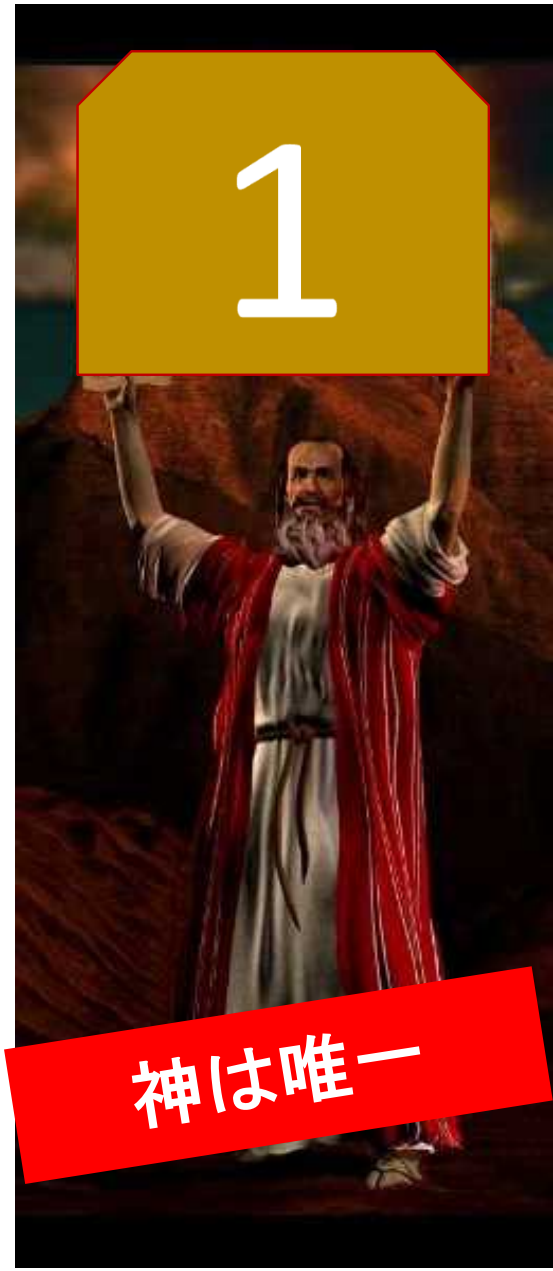
【十戒・第一戒】 出 20:3

「あなたには、わたしのほかに、
ほかの神々があってはならない。」

■“神は唯一である。” これを認めることが信仰の第一歩。

■イスラエルの民の使命は、
神が唯一であると、諸国民に示すこと。

「あなたがたはわたしの証人、—【主】の御告げ—わたしが選んだわたしのしもべである。これは、あなたがたが知って、わたしを信じ、わたしがその者であることを悟るためだ。わたしより先に造られた神はなく、わたしより後にもない。わたし、このわたしが、【主】であって、わたしのほかに救い主はいない。」 イザ 43:10～11



【十戒・第二戒①】 出20:4～5

あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。

■偶像とは、人間の欲望を形にしたもの。

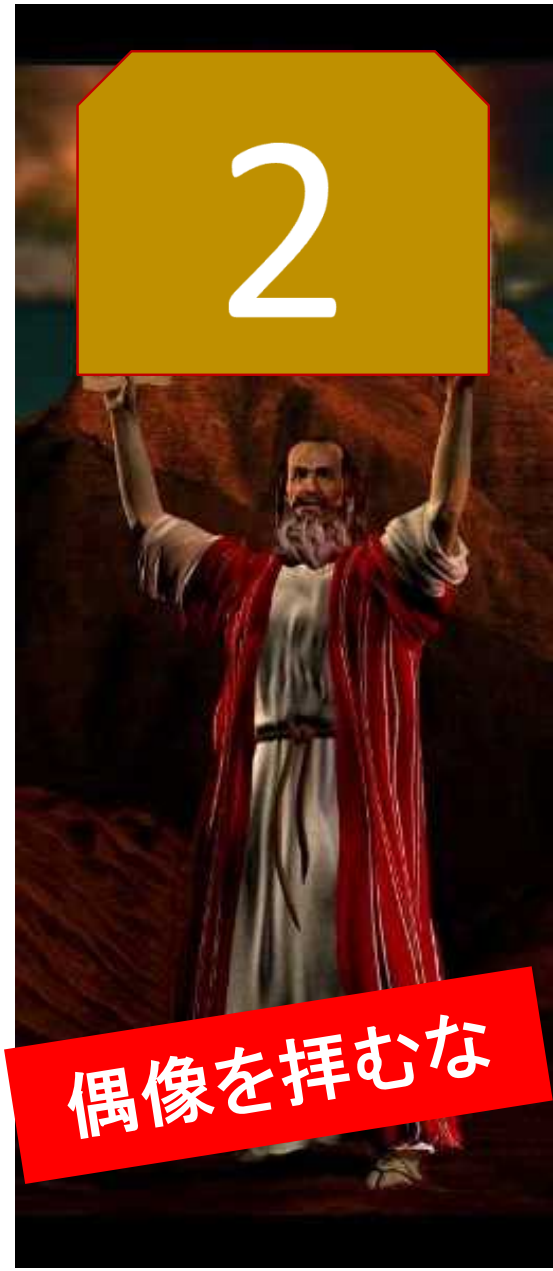
究極の偶像礼拝とは、自己中心。

➡自分の感情、感覚が絶対化される現代は？

Q：人形を作ることは、ゆるされてる？

➡礼拝の対象として、像を造ることの禁止。

例)　幕屋のケルビム、青銅の蛇…。



【十戒・第二戒②】 出20:5～6

あなたの神、【主】であるわたしは、ねたむ神*、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い*、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施す*からである。

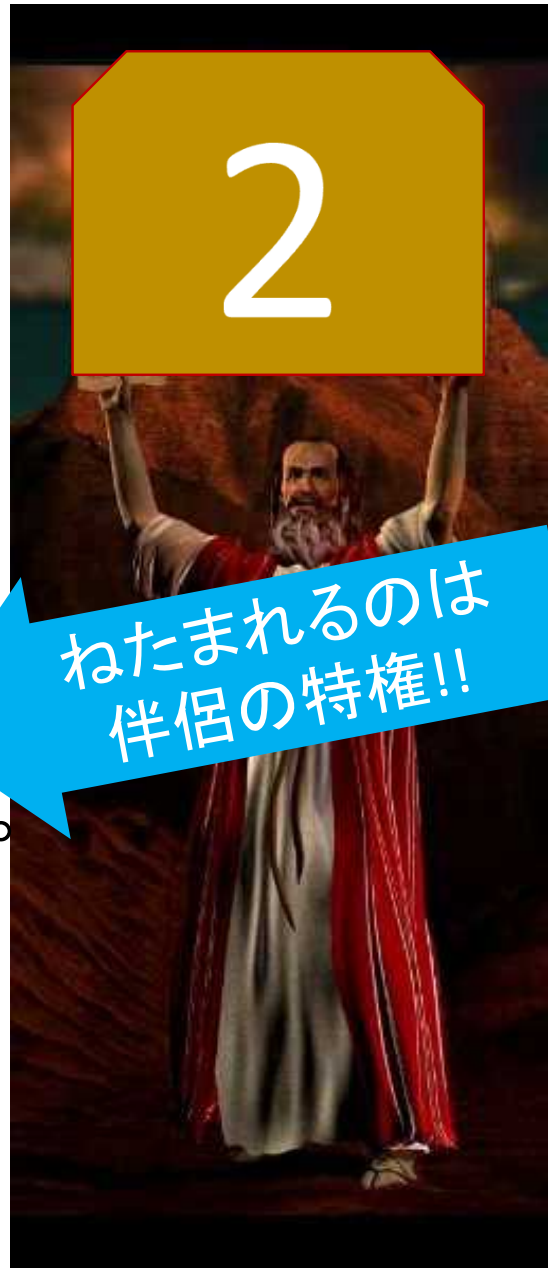
＊伴侶の不貞をねたむのは、当然の愛の行為。

➡イスラエルは神の妻。神は、民の不貞をねたむ。

＊先祖の悪影響が、ひ孫の代まで及ぶこと。

＊一方、契約による神の恵みは、永遠に続く。

愛の神は、イスラエルの不貞をねたむ!!

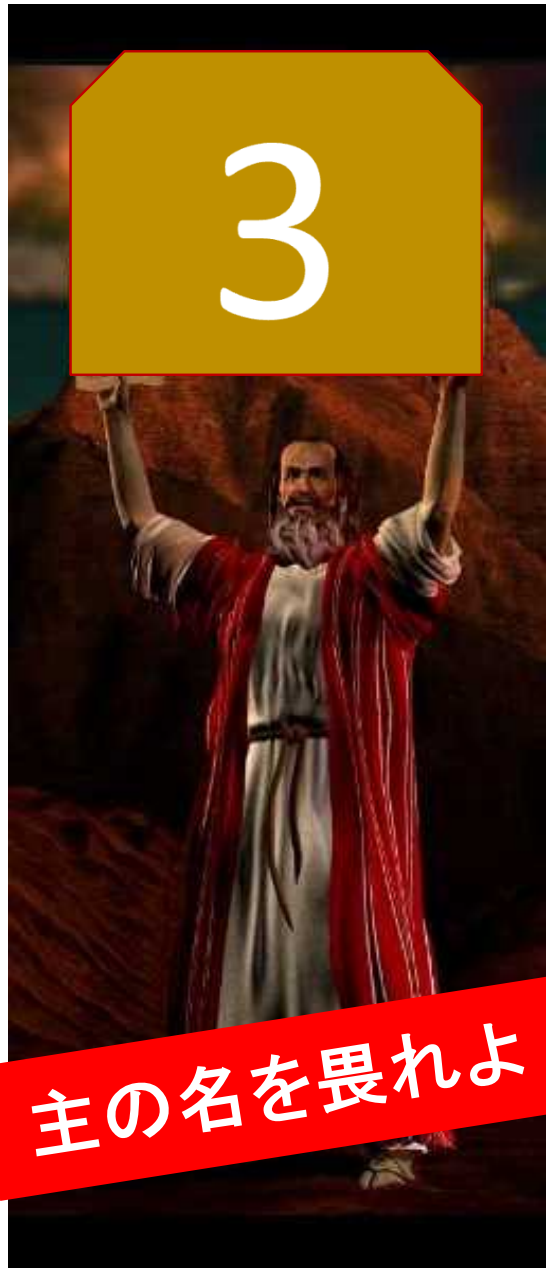


【十戒・第三戒】 出20:7

あなたは、あなたの神、【主】の御名を、
みだりに唱えてはならない。【主】は、御名をみだりに
唱える者を、罰せずにはおかない。

■神の尊厳やご性質を、引き下げてはいけない!!

Q：間違った名前と分かっていながら呼ぶことは？
『エホバ』 × → 異邦人クリスチャンの間違い。
『ヤハウェ』 ○
※アドナイ(主)の母音記号がついた“YHWH”を
そのまま読んだため、エホバになってしまった。

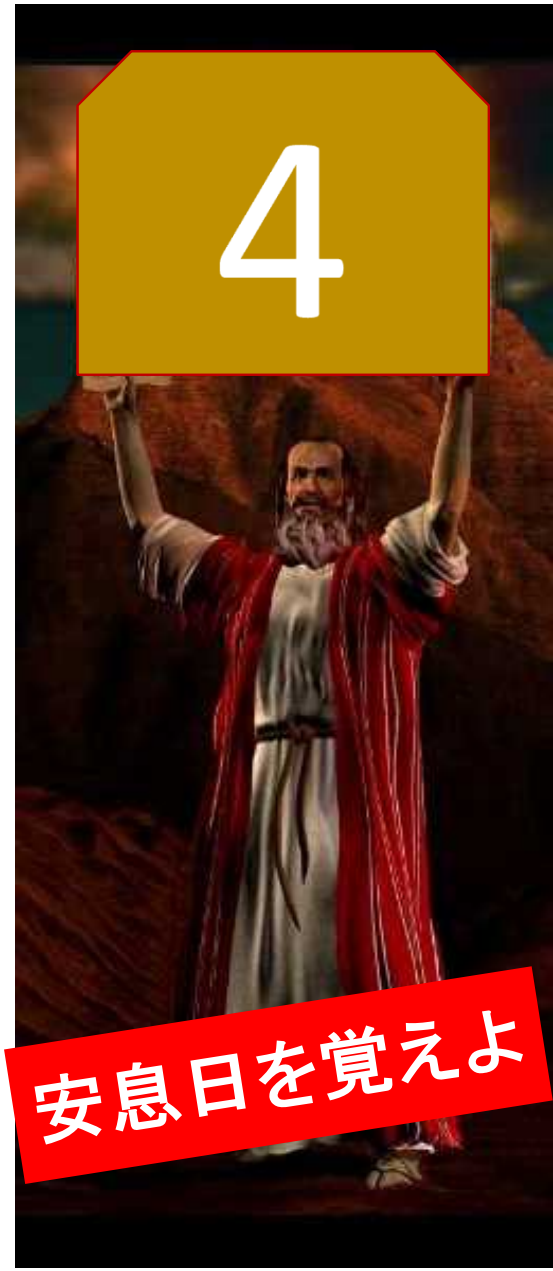


【十戒・第四戒】 出20:8
安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。

■安息日は、週の七日目。土曜(金曜・夕～土曜・夕)
★安息日は、モーセ契約のしるし
契約の民を、偶像礼拝の他民族と区別するもの。

Q：礼拝は、土曜日にささげるべき？
①安息日は、休息の日。礼拝は、祭りの時。
②モーセの律法は、現在は無効。

「ある日を、他の日に比べて、大事だと考える人もいますが、どの日も同じだと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。」 ロマ14:5



【十戒・第五戒】 出20:12

あなたの父と母を敬え。あなたの神、【主】が与えようとしておられる地で、あなたの齢が長くなるためである。

Q：イスラエルにとって、「父母を敬う」とは？

■父母を敬う ➡ 先祖が、唯一の神と契約を結び
父母が、その契約を受け継いだゆえに。

■父母に従う ➡ 神の立てた秩序と権威に従うこと。
謙遜を学ぶこと。

■齢が長くなる ➡イスラエルが、約束の土地で
平安に、長く住むこと。

■権威に対する、正しい恐れを持っているか？
例) 福島瑞穂議員…「目上」は、おかしい

【十戒・第六戒】 出20:13
殺してはならない。

■個人的理由で、意図的に、故意に殺すことの禁止。
➡命の尊厳を教えたもの。

■偶像礼拝や姦淫、重大な律法の戒めを破った者に、
モーセの律法は、死刑を定めている。

■神の命じる聖なる戦いにおける殺人も含まれない。

Q:第六戒は、死刑廃止や戦争反対の根拠になる？

【十戒・第七戒】 出20:14
姦淫してはならない。

■不貞だけでなく、同性間の性行為、近親相姦など、
正当な婚姻外の、すべての性的罪を含む。

【十戒・第八戒】 出20:15
盗んではならない。

■私有財産の尊厳を教えたもの
■盗むことは、自分には、思い通り、好き勝手に生きる
権利があるという究極の利己主義、自己中心。

【十戒・第九戒】 出20:16

あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。

■真実の大切さを教えたもの。

■個人的な嘘ではなく、隣人に対する偽証のこと。

➡法廷での偽証から、偽りの噂話まで。

例) フェイクニュースも偽証!!

■真実を貶め、偽ることは、
真実の方である神を貶め、偽ることにつながる!!

真実が大切なのは、神が真実の方だから!!

【十戒・第十戒】 出20:17

あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

■「貪欲」という、人の心にある罪の根っこの問題。

■“神はすべての必要を満たしてくださる”という、神への信頼・信仰を否定するのが、貪欲の罪。

■貪欲を禁じた、第十回を守ることができれば、十戒すべてを守ることができる。

Ⅳ. まとめと適用

モーセの律法と
キリストの愛の律法

【モーセの律法とは何か？　何のために与えられたのか？】

■律法は、イスラエルの養育係。幼子を＿アメ＿と＿ムチ＿で導くもの。
(祝福)　(呪い)

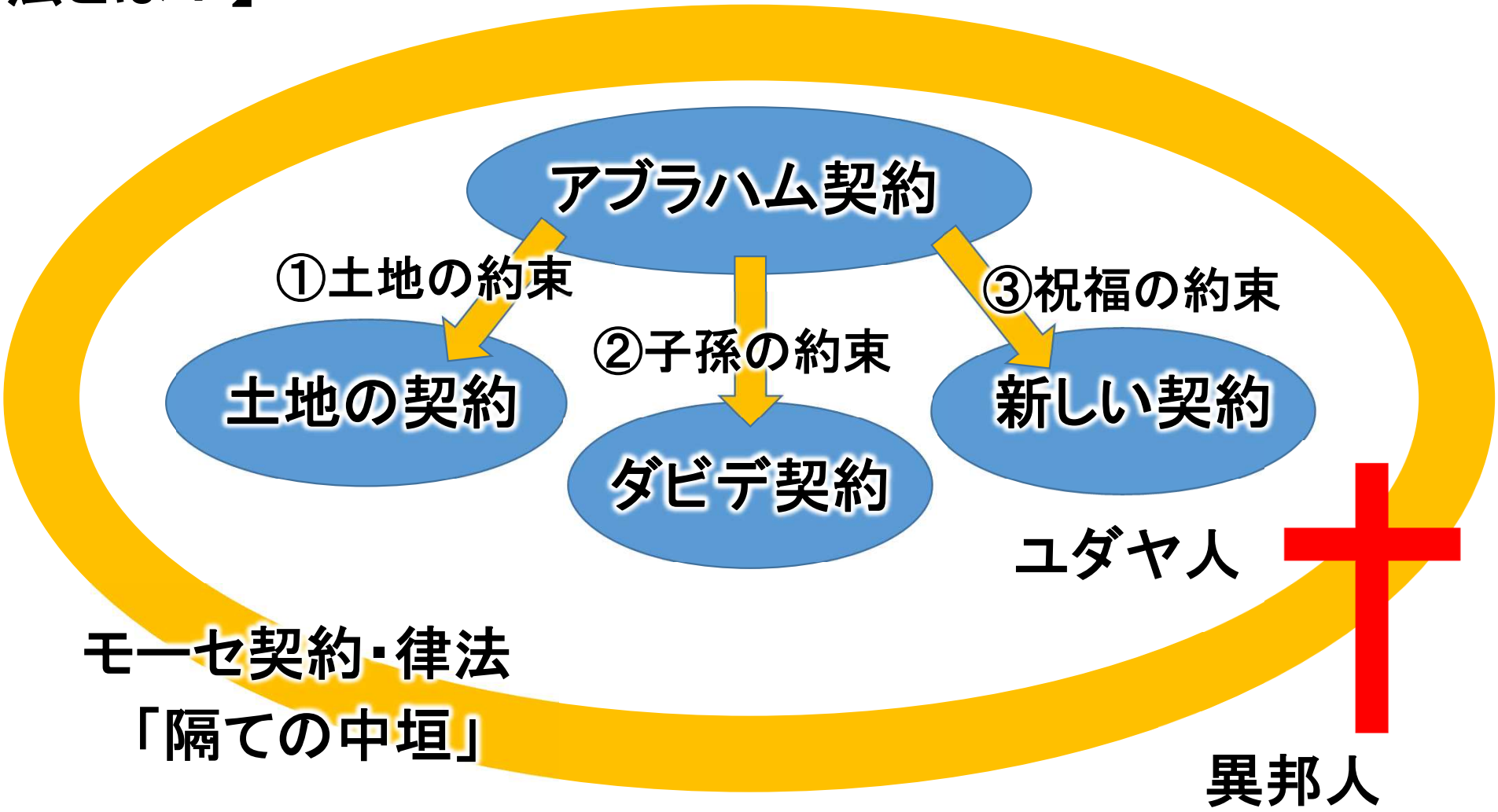
■神によって奴隷から救い出されたイスラエルが、
どう歩むべきかを示し、信仰の成長を促すもの。

■しかし、イスラエルは、律法を守り通すことができなかった。

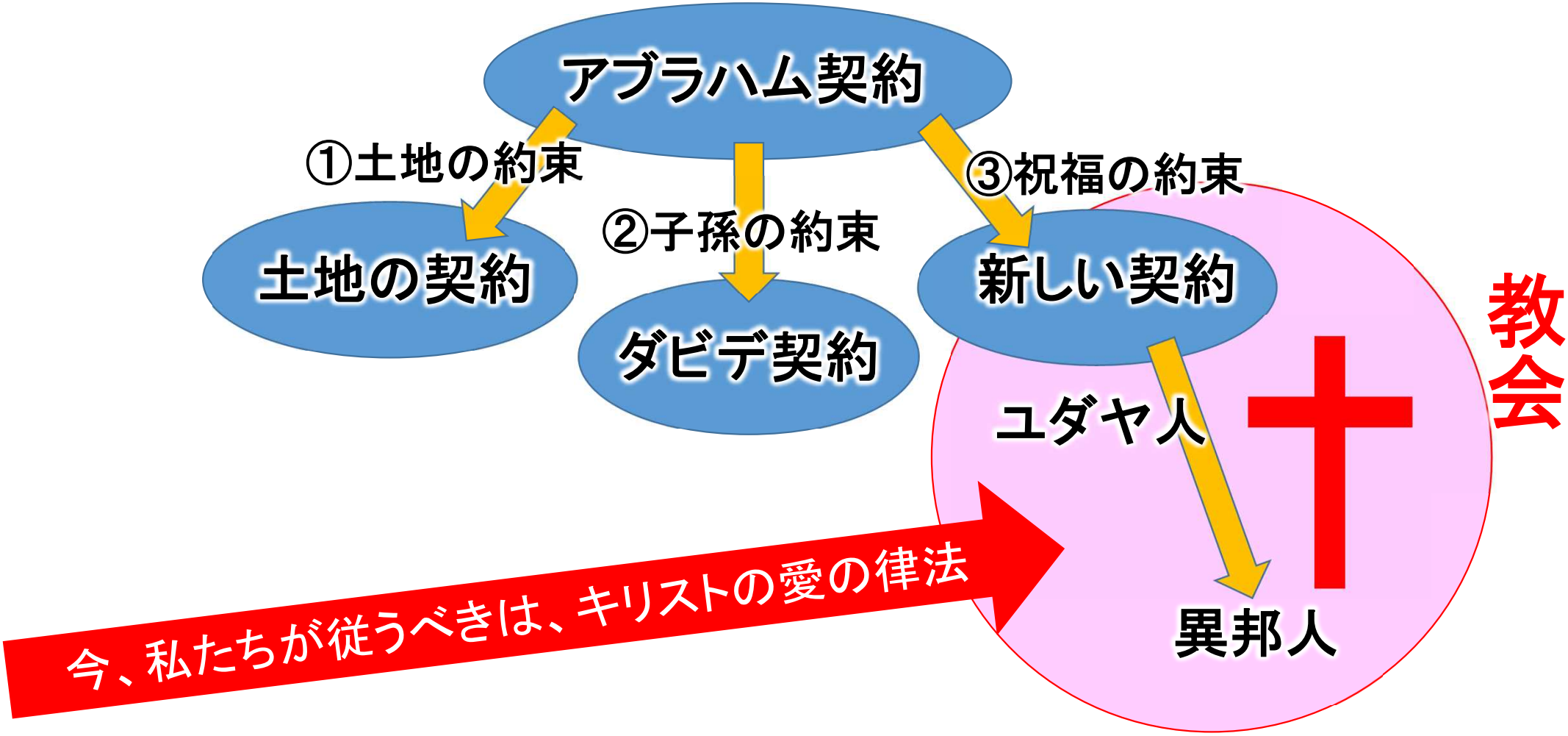
■律法に背いたイスラエルは、ついには、約束の地を追われることに。

■律法は、イスラエルの抱える重い罪の現実を突きつけ、
メシア・救い主を待ち望む思いを強く抱かせる。

【律法とは？】


アブラハム契約
①土地の約束
②子孫の約束
③祝福の約束
土地の契約
ダビデ契約
新しい契約
ユダヤ人
モーセ契約・律法
「隔ての中垣」
異邦人

【律法とは？】


アブラハム契約
①土地の約束
②子孫の約束
③祝福の約束
土地の契約
ダビデ契約
新しい契約
ユダヤ人
異邦人
教会
今、私たちが従うべきは、キリストの愛の律法

【モーセの律法と私たち】 ローマ書7:22～24

すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに、私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

■私たちの内に、「罪の律法」があって、私たちの心を支配している。

■文字に書かれた「モーセの律法」は、罪の律法に打ち勝てなかった。

➡律法は本来よいものだが、守れないのが罪人である私たち。

真実に人の罪を贖われた、救い主を信じるしかない!!

【キリストが、律法の真の目的を全うされた】 ローマ書8:1～4

　こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。
肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。
それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。

■モーセの律法では打ち勝てなかった、罪の律法を、
　キリストが、十字架の犠牲によって、打ち破ってくださった。

【律法に生きたイスラエル、キリストの律法に生きる私たち】

■イスラエルの誰も、律法を守り通せなかった。

■律法は、人間に、どうしようもない罪の存在を突きつけ、
　メシアを待ち望む思いを、人々に強く抱かせた。

■律法の目的は、人々をメシアに向けさせるためにある。

■イエス・キリストの、十字架の死と葬りと復活によって、
　律法のすべては、『成し遂げられた(ヨハ19:30)』

■今や、福音を信じたすべての者の内に、聖霊が住まわれて
いて、生きた律法として、私たちを正しく導いてくださる。

【モーセの律法と私たち】

■私たちは、信じて救われ、信じて成長していく。

■心に忍び寄る、律法主義に気をつけよう。
　自分の義・正しさで、何かをなそうとしていないだろうか？
　“ねばならない”“するべき”という自分の思いに囚われていないか？

■私たちに必要なのは、主への告白と祈り、主への信頼。
■恐れず踏み出そう。間違いは主が正し、確かに導いてくださるから。

「主よ。わたしには、できません
　しかし、聖霊によって助けてくださるならば、わたしにも、できます。」

「天のお父さま。
　わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したこと、を信(しん)じます。
　私たちが、罪のゆえに守（まも）れなかった律法（りっぽう）を
　主イエスが、なしとげてくださいました。
　わたしには、できません。しかし、主よ。
　あなたが聖霊（せいれい）によって助けてくださるなら、できます。
　信仰(しんこう)によって　救（すく）われたわたしを、
　信仰（しんこう）によって　育(はぐく)んでください。
　主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。
アーメン」

6
モーセ
聖徒伝 32
「約束の主
契約の民」
出19～24章　律法の授与・シナイ契約

【今日のアウトライン】

０. ふりかえり

Ⅰ. シナイ山での主の顕現　　19章

Ⅱ. シナイ契約・十戒　　20章1～17節

Ⅲ. まとめと適用

モーセの律法と

キリストの愛の律法

イスラエルの歩みは
すべて　アブラハムへの
神の約束から始まった

神は、
選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と　子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。

【予告された400年の奴隷の苦難】 創15:13～14

「あなた（アブラハム）の子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。」

■アブラハムへの約束通り、
　150年後、大飢饉を逃れて、一族はエジプトへ。

■400年で一大民族に成長したイスラエルは、
　多くの財をもって、エジプトを脱出することに!!

【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

イスラエルのエジプトでの400年も、
アブラハム契約のゆえに守られた!!

【三つの主な条項】

①子孫の約束

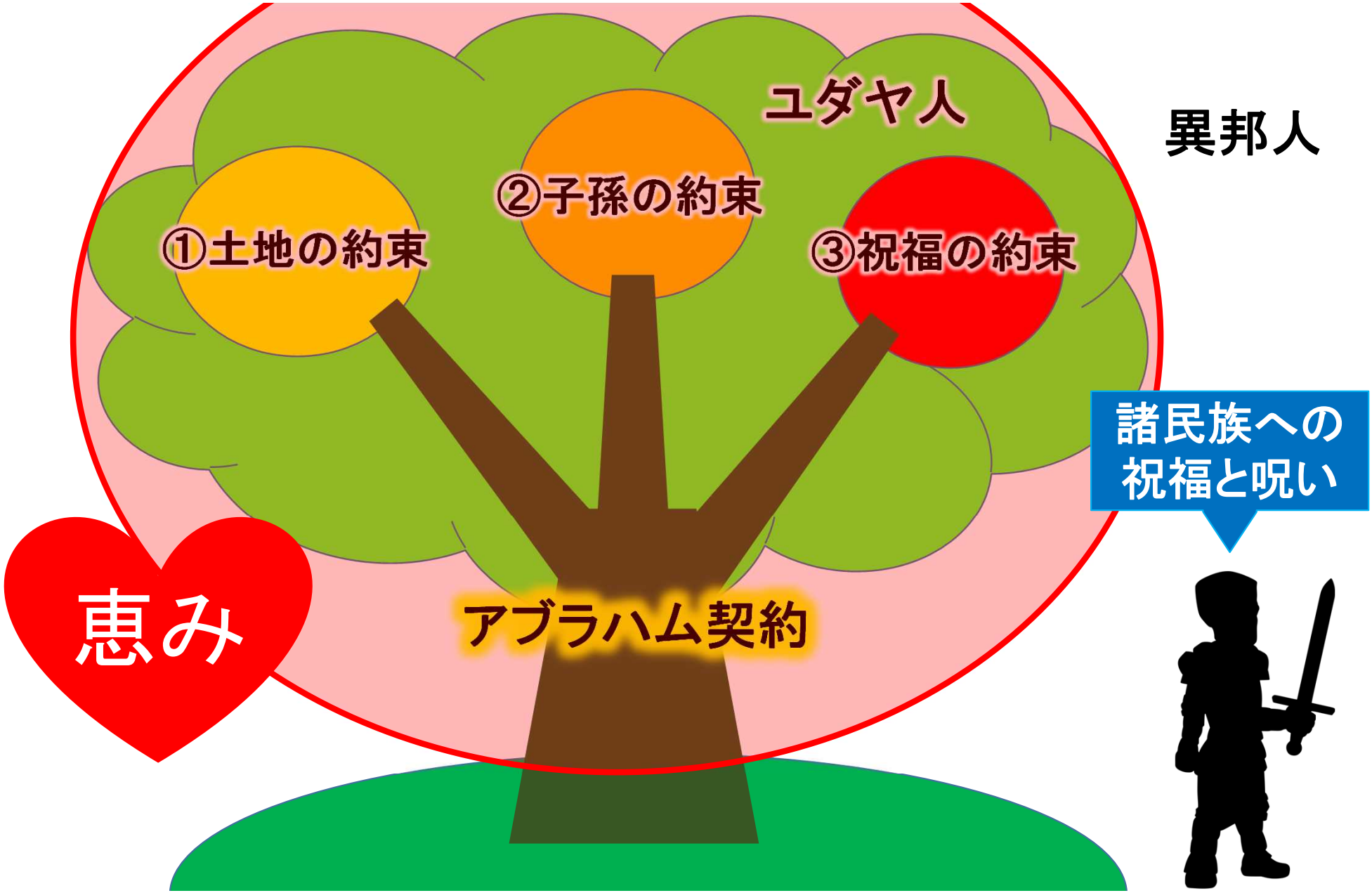
②土地の約束

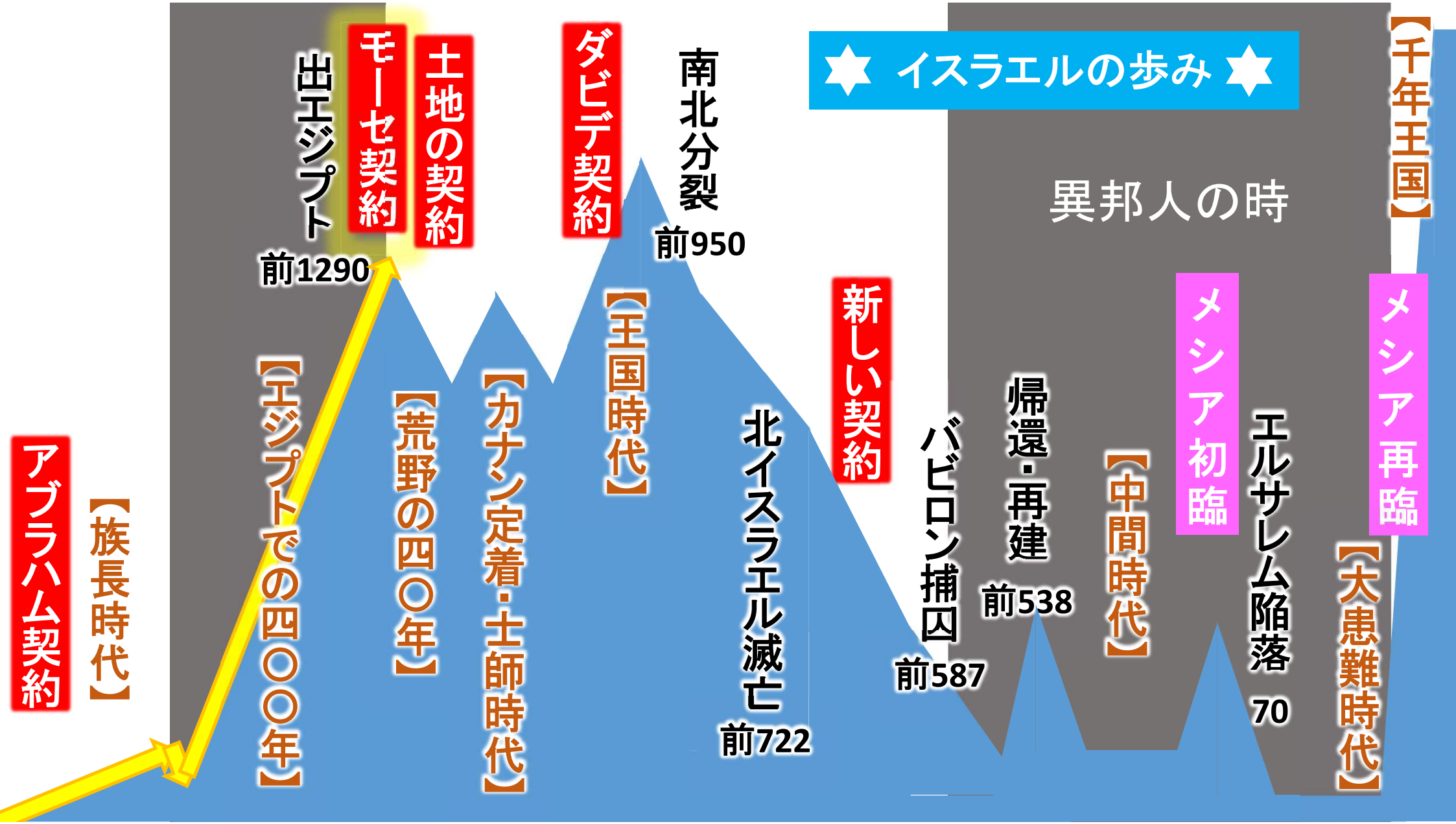
③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

※付帯条項　…祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし　…割礼

【アブラハム契約】




イスラエルの歩み
アブラハム契約
【族長時代】
【エジプトでの四〇〇年】
モーセ契約
出エジプト
前1290
土地の契約
【荒野の四〇年】
【カナン定着・士師時代】
ダビデ契約
【王国時代】
南北分裂
前950
北イスラエル滅亡
前722
新しい契約
バビロン捕囚
前587
帰還・再建
前538
【中間時代】
異邦人の時
メシア初臨
エルサレム陥落
70
【大患難時代】
メシア再臨
【千年王国】

【モーセの生涯】 誕生～40歳～80歳

■エジプトの王女に拾い上げられ、王宮で育つ。

■40歳の時、逃亡者となり、40年間を荒野で過ごす。

■80歳の時、イスラエルの指導者として召命される。

■パロとの交渉は決裂し、エジプトに災いが下る。

■イスラエルの民を連れ、エジプトを脱出。
　葦の海を渡り、いよいよ約束の地へ!!

【モーセの生涯】

0～40歳

奴隷の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に　40才

40～80歳

ミディアン人の娘チッポラと結婚

荒野での羊飼い生活

召命　80才

80～120歳

十の災い

出エジプト

シナイ契約

民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【シナイ半島の荒野の旅を経て】

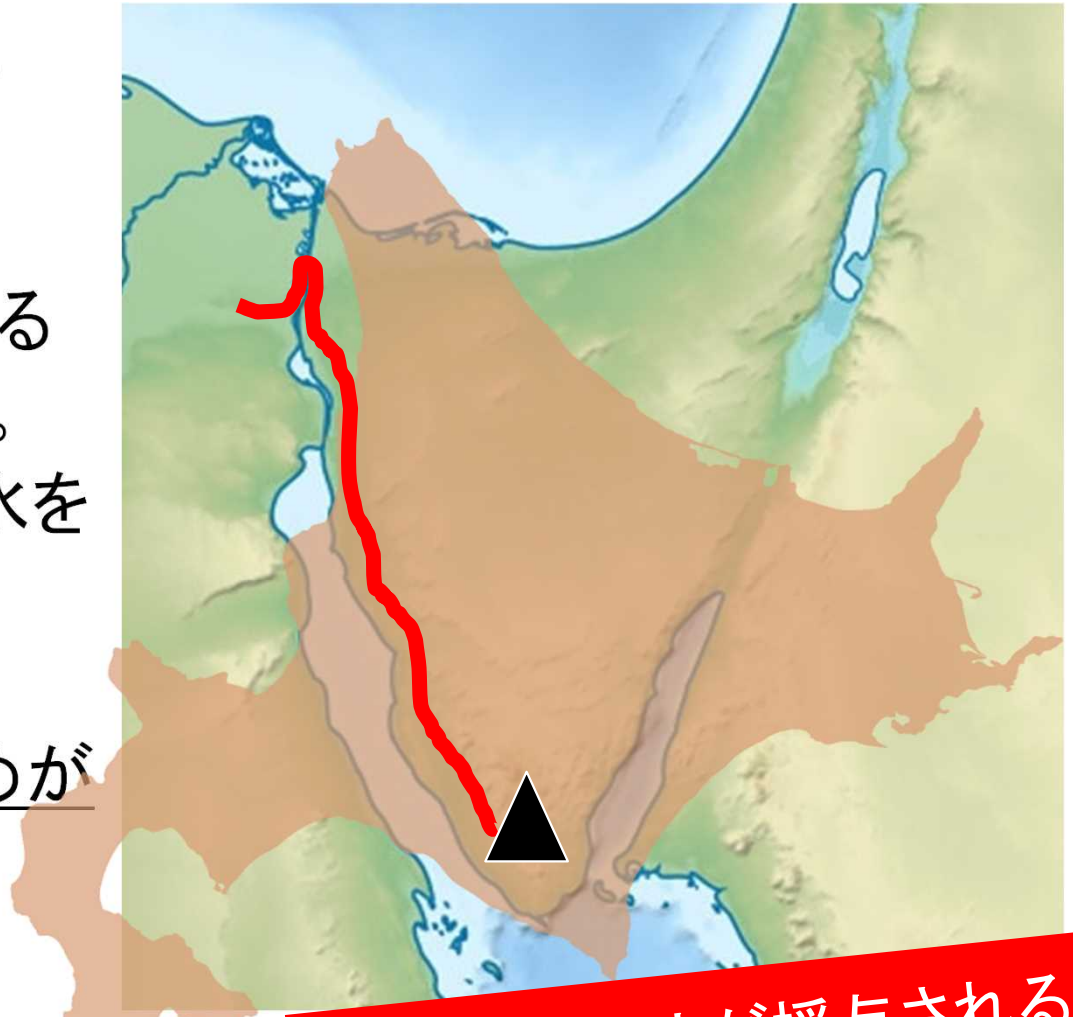
■葦の海を渡り、エジプトを脱出した
　イスラエルは、シナイの荒野へ。

■まもなく、民の不満が噴出。ことある
　ごとに、つぶやきが繰り返された。

■神は、天からパンを与え、岩から水を
　湧き出させ、民を養った。

■ミデヤン人の舅イテロは、<u>掟と定めが</u>
　<u>民には必要だ</u>とモーセに告げた。

■約3ヶ月の旅を経て、シナイ山へ。



いよいよ律法が授与される!!

Ⅰ．シナイ山での神の顕現
出エジプト記19章
ホレブ山脈・このどこかにシナイ山が!!

【シナイ山到着】 出19:1～2

エジプトの地を出たイスラエル人は、第三の月の新月*のその日に、シナイの荒野に入った。

彼らはレフィディムを旅立って、シナイの荒野に入り、その荒野で宿営した。イスラエルはそこで、山のすぐ前に宿営した。

＊第三の月の新月　➡3月1日。出発から42日。

三月目のその日(新共同訳)　➡3月15日。2ヶ月。

■「あなたが民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で、神に仕えなければならない。出3:12」

■イスラエルへの主の約束が、一つ成就した。

不平を述べ立てる民を、主が忍耐強く導かれて。

【約束の神に導かれて】 出 19:3～4

モーセは神のみもとに上って行った。【主】は山から彼を呼んで仰せられた。「あなたは、このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げよ。あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと*、また、あなたがたを鷲の翼*に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。」

＊拒絶したエジプトに、災いが下り、戦車部隊は、海に飲み込まれた。

＊鷲の翼　➡神の速やかな救出を表す。

■すべては、神の約束に基づいて成し遂げられた。

【イスラエルの存在意義と使命】 出19:5～6

「今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。

あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これが、イスラエル人にあなたの語るべきことばである。」

■神の契約が、イスラエルを特別な存在にした!!
契約に聞き従うなら、祝福が。背くならば、呪いが。

■イスラエルは、神を王とした、祭司の聖なる王国。
“神と全人類の間をとりなす祭司”こそ真の使命!!

【契約の下準備・民の意思確認】 出19:7～9

モーセは行って、民の長老たちを呼び寄せ、【主】が命じられたこれらのことばをみな、彼らの前に述べた。
すると民はみな口をそろえて答えた。「私たちは【主】が仰せられたことを、みな行います。」それでモーセは民のことばを【主】に持って帰った。
すると、【主】はモーセに仰せられた。「見よ。わたしは濃い雲の中で、あなたに臨む。わたしがあなたと語るのを民が聞き、いつまでもあなたを信じるためである。」
それからモーセは民のことばを【主】に告げた。

■モーセを仲介者に、契約の下準備がなされる。
　モーセは、弁護士か、司法書士のような役回り？！
■王である神の庇護の下、民が忠誠を誓う。
　➡“宗主契約” …王と民の間の契約。

【聖別の命令①】出19:10～11

【主】はモーセに仰せられた。「あなたは民のところに行き、きょうとあす、彼らを聖別*し、自分たちの着物を洗わせよ。

彼らは三日目のために用意をせよ。三日目には、【主】が民全体の目の前で、シナイ山に降りて来られるからである。」

■王なる神を迎える準備をするイスラエルの民。

＊聖別　➡神の所有として他から区別された。

■聖別にふさわしく、身を清め、整えた。

【聖別の命令②】出19:12～13

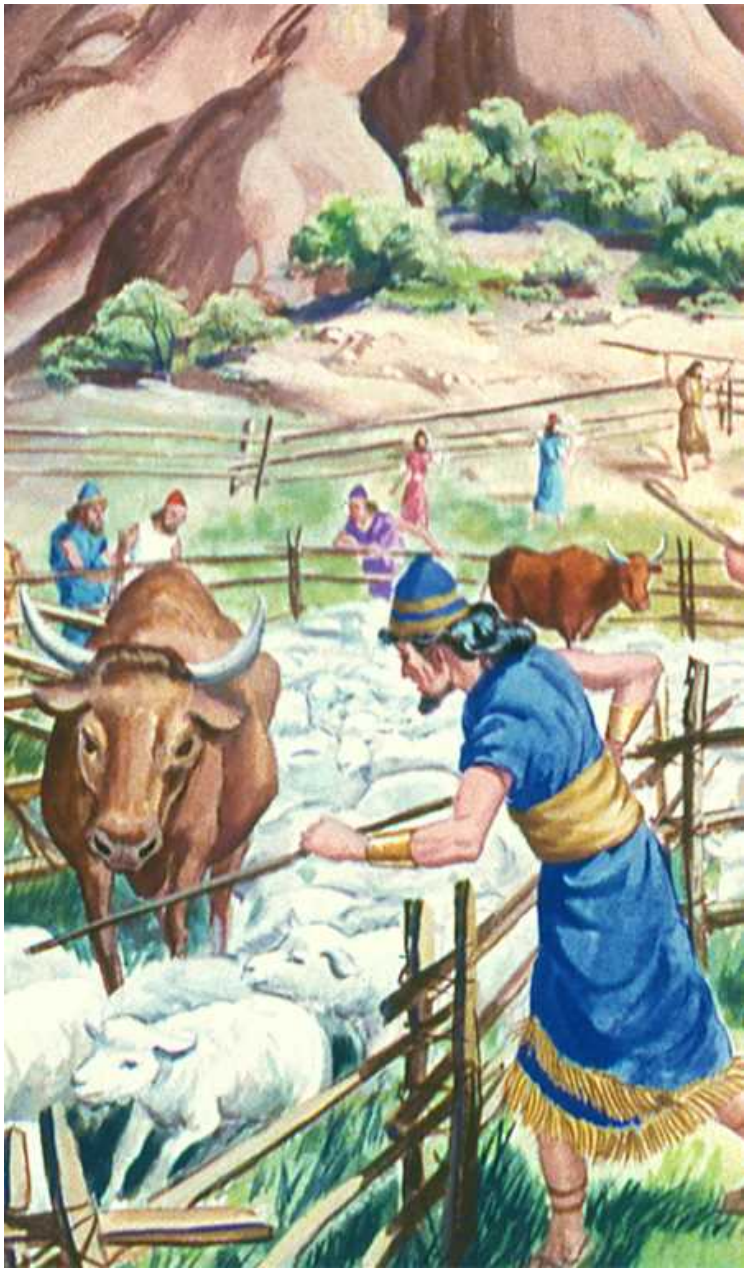
「あなたは民のために、周囲に境を設けて言え。山に登ったり、その境界に触れたりしないように注意しなさい。山に触れる者は、だれでも必ず殺されなければならない。

それに手を触れてはならない。触れる者は必ず石で打ち殺されるか、刺し殺される。獣でも、人でも、生かしておいてはならない。しかし雄羊の角が長く鳴り響くとき、彼らは山に登って来なければならない。」

■完全に聖なる神が臨在される、その山に、
　罪人は、触れるだけで死んでしまう。

■獣まで刺し殺される。➡徹底した聖別の実行!!

■イスラエルは身をきよめ、神が呼ばれるのを待った。



【神の顕現】 出19:14～16

それでモーセは山から民のところに降りて来た。そして、民を聖別し、彼らに自分たちの着物を洗わせた。モーセは民に言った。「三日目のために用意をしなさい。女に近づいてはならない。」

三日目の朝になると、山の上に雷といなずまと密雲があり、角笛の音が非常に高く鳴り響いたので、宿営の中の民はみな震え上がった。

■民は、着物を洗い、男女関係も避けた。
　意識をすべて、王なる神に向けるということ。

■これ以上ない形で、神は激しく顕現された。
　主の栄光(シャカイナグローリー)が勢揃い!!

【モーセを呼び出す神】 出19:19

角笛の音が、いよいよ高くなった。モーセは語り、神は声を出して、彼に答えられた。【主】がシナイ山の頂に降りて来られ、【主】がモーセを山の頂に呼び寄せられたので、モーセは登って行った。
【主】はモーセに仰せられた。
「下って行って、民を戒めよ。【主】を見ようと、彼らが押し破って来て、多くの者が滅びるといけない。
【主】に近づく祭司たちもまた、その身をきよめなければならない。【主】が彼らに怒りを発しないために。」

■山頂に、ひときわ激しい、神の顕現が!!
■モーセが、民の代表者として、
　王なる神の前に呼び出された。

【契約締結の準備完了】出19:23～24

モーセは【主】に申し上げた。「民はシナイ山に登ることはできません。あなたが私たちを戒められて、『山の回りに境を設け、それを聖なる地とせよ』と仰せられたからです。」

【主】は彼に仰せられた。「降りて行け。そしてあなたはアロンといっしょに登れ。祭司たちと民とは、【主】のところに登ろうとして押し破ってはならない。主が彼らに怒りを発せられないために。」

そこでモーセは民のところに降りて行き、彼らに告げた。

■やりとりを通して、神の聖さを確認させられるモーセ。

➡王を迎える準備ができているか。最終確認が!!

■こうして、契約締結の準備が完了した。

Ⅱ．十戒　　出エジプト記20章

【モーセの律法　十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約

・「十戒」がその中心　…全部で613の条項

(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

①救いの方法ではない。

②神が聖であることを示す。

③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。

④人の罪を示す

⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。

⑥人を信仰へと導く

⑦今現在は、すでに役目を終えた。

【十戒・まえがき】

20:1 それから神は　これらのことばを、
　ことごとく告げて仰せられた。
20:2「わたしは、あなたをエジプトの国、
　奴隷の家から連れ出した、あなたの神、
　【主】である。」

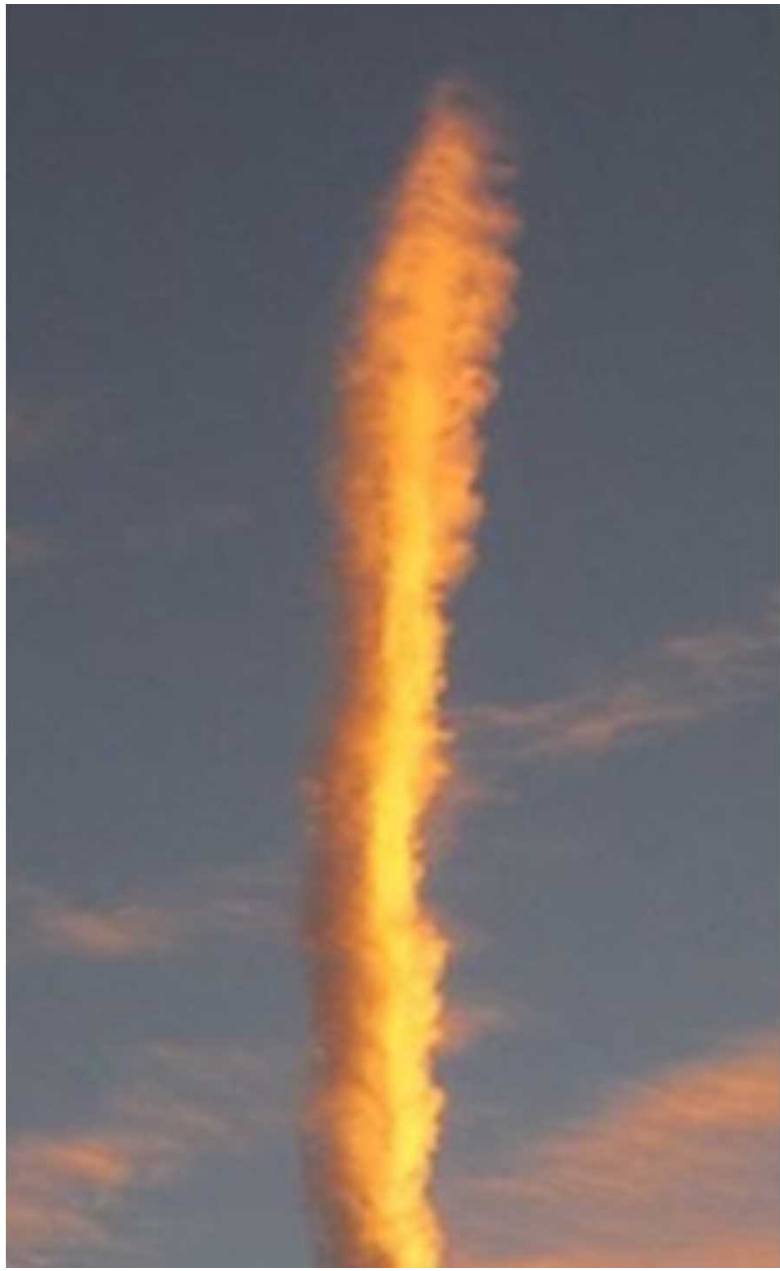
★モーセの律法は、宗主契約

■“宗主契約”　…王が、民と結ぶ契約。

●王は、民を支配し、保護し、
　　民に恩恵を与え、導く。

●民は、王に従う。

■唯一の神こそ、
　イスラエルと契約を結ぶ王だと宣言された。



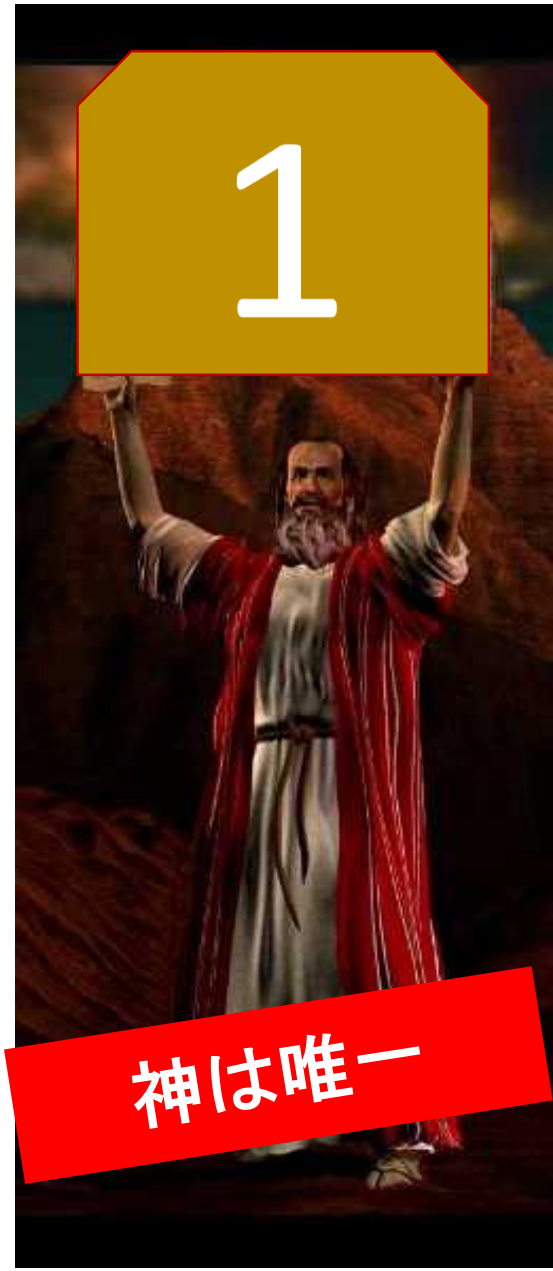
【十戒・第一戒】 出 20:3

「あなたには、わたしのほかに、
ほかの神々があってはならない。」

■“神は唯一である。” これを認めることが信仰の第一歩。

■イスラエルの民の使命は、
神が唯一であると、諸国民に示すこと。

「あなたがたはわたしの証人、—【主】の御告げ—わたしが選んだわたしのしもべである。これは、あなたがたが知って、わたしを信じ、わたしがその者であることを悟るためだ。わたしより先に造られた神はなく、わたしより後にもない。わたし、このわたしが、【主】であって、わたしのほかに救い主はいない。」 イザ 43:10～11



【十戒・第二戒①】 出20:4～5

あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。

■偶像とは、人間の欲望を形にしたもの。

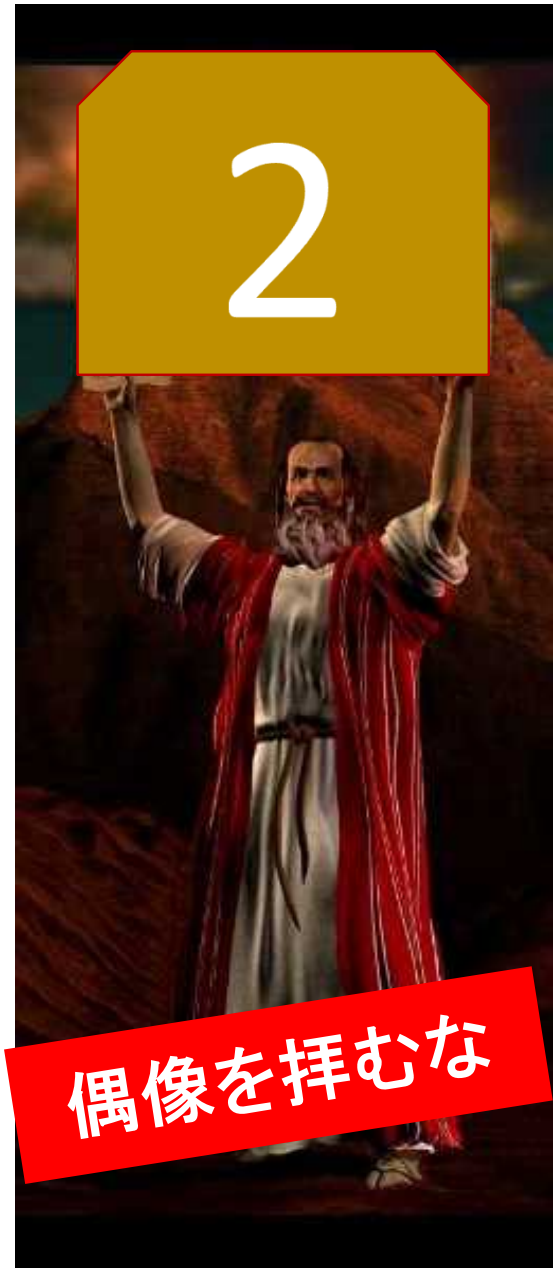
究極の偶像礼拝とは、自己中心。

➡自分の感情、感覚が絶対化される現代は？

Q：人形を作ることは、ゆるされてる？

➡礼拝の対象として、像を造ることの禁止。

例)　幕屋のケルビム、青銅の蛇…。



【十戒・第二戒②】 出20:5～6

あなたの神、【主】であるわたしは、ねたむ神*、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い*、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施す*からである。

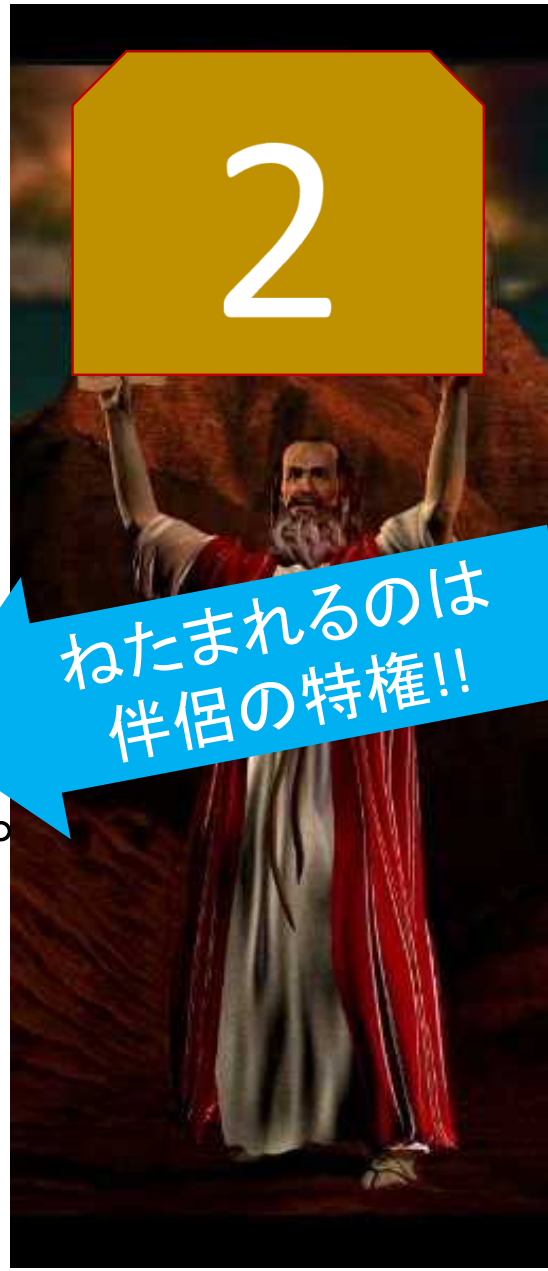
＊伴侶の不貞をねたむのは、当然の愛の行為。

➡イスラエルは神の妻。神は、民の不貞をねたむ。

＊先祖の悪影響が、ひ孫の代まで及ぶこと。

＊一方、契約による神の恵みは、永遠に続く。

愛の神は、イスラエルの不貞をねたむ!!

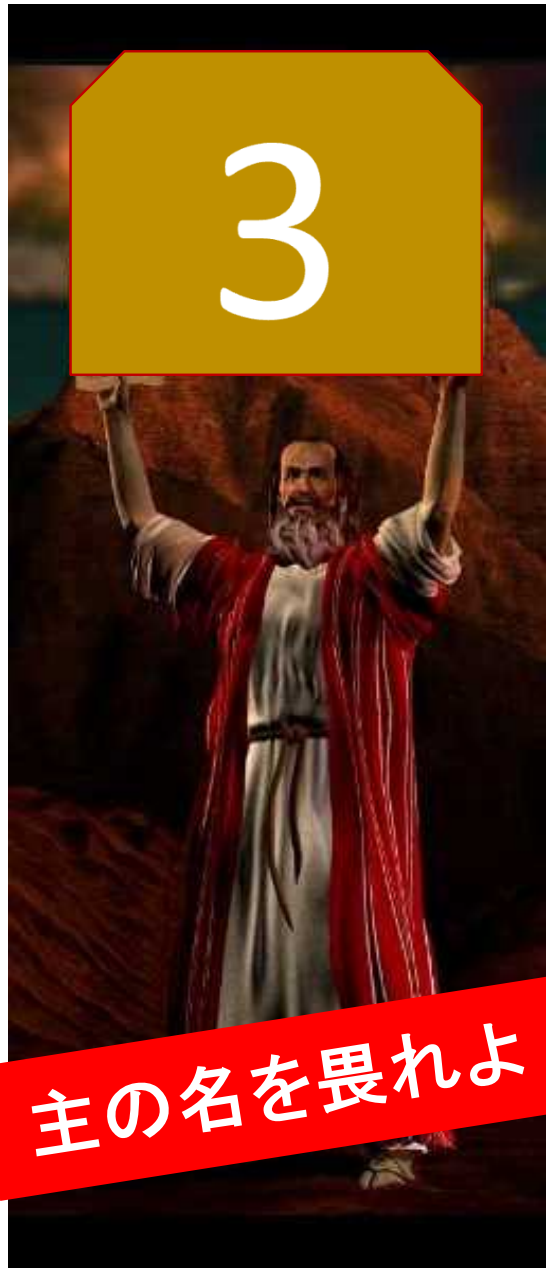


【十戒・第三戒】 出20:7

あなたは、あなたの神、【主】の御名を、
みだりに唱えてはならない。【主】は、御名をみだりに
唱える者を、罰せずにはおかない。

■神の尊厳やご性質を、引き下げてはいけない!!

Q：間違った名前と分かっていながら呼ぶことは？
『エホバ』 × → 異邦人クリスチャンの間違い。
『ヤハウェ』 ○
※アドナイ(主)の母音記号がついた“YHWH”を
そのまま読んだため、エホバになってしまった。

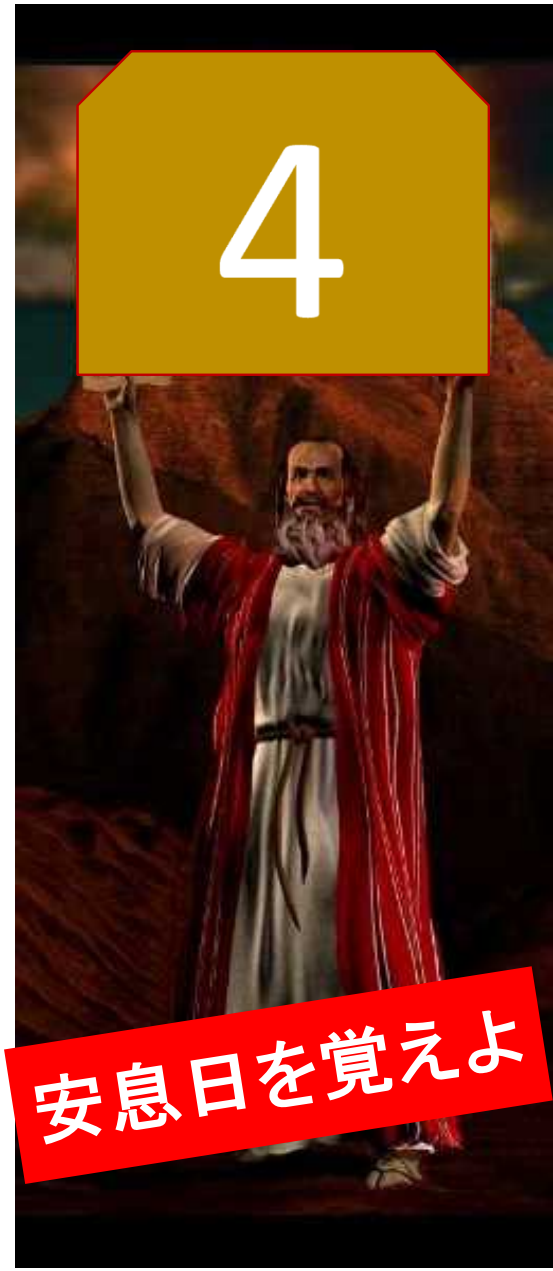


【十戒・第四戒】 出20:8
安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。

■安息日は、週の七日目。土曜(金曜・夕～土曜・夕)
★安息日は、モーセ契約のしるし
契約の民を、偶像礼拝の他民族と区別するもの。

Q：礼拝は、土曜日にささげるべき？
①安息日は、休息の日。礼拝は、祭りの時。
②モーセの律法は、現在は無効。

「ある日を、他の日に比べて、大事だと考える人もいますが、どの日も同じだと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。」 ロマ14:5



【十戒・第五戒】 出20:12

あなたの父と母を敬え。あなたの神、【主】が与えようとしておられる地で、あなたの齢が長くなるためである。

Q：イスラエルにとって、「父母を敬う」とは？

■父母を敬う ➡ 先祖が、唯一の神と契約を結び
父母が、その契約を受け継いだゆえに。

■父母に従う ➡ 神の立てた秩序と権威に従うこと。
謙遜を学ぶこと。

■齢が長くなる ➡イスラエルが、約束の土地で
平安に、長く住むこと。

■権威に対する、正しい恐れを持っているか？
例) 福島瑞穂議員…「目上」は、おかしい

【十戒・第六戒】 出20:13
殺してはならない。

■個人的理由で、意図的に、故意に殺すことの禁止。
➡命の尊厳を教えたもの。

■偶像礼拝や姦淫、重大な律法の戒めを破った者に、
モーセの律法は、死刑を定めている。

■神の命じる聖なる戦いにおける殺人も含まれない。

Q:第六戒は、死刑廃止や戦争反対の根拠になる？

【十戒・第七戒】 出20:14
姦淫してはならない。

■不貞だけでなく、同性間の性行為、近親相姦など、
正当な婚姻外の、すべての性的罪を含む。

【十戒・第八戒】 出20:15
盗んではならない。

■私有財産の尊厳を教えたもの
■盗むことは、自分には、思い通り、好き勝手に生きる
権利があるという究極の利己主義、自己中心。

【十戒・第九戒】 出20:16

あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。

■真実の大切さを教えたもの。

■個人的な嘘ではなく、隣人に対する偽証のこと。

➡法廷での偽証から、偽りの噂話まで。

例) フェイクニュースも偽証!!

■真実を貶め、偽ることは、
真実の方である神を貶め、偽ることにつながる!!

真実が大切なのは、神が真実の方だから!!

【十戒・第十戒】 出20:17

あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

■「貪欲」という、人の心にある罪の根っこの問題。

■“神はすべての必要を満たしてくださる”という、神への信頼・信仰を否定するのが、貪欲の罪。

■貪欲を禁じた、第十回を守ることができれば、十戒すべてを守ることができる。

Ⅳ. まとめと適用

モーセの律法と
キリストの愛の律法

【モーセの律法とは何か？　何のために与えられたのか？】

■律法は、イスラエルの養育係。幼子を＿アメ＿と＿ムチ＿で導くもの。
(祝福)　(呪い)

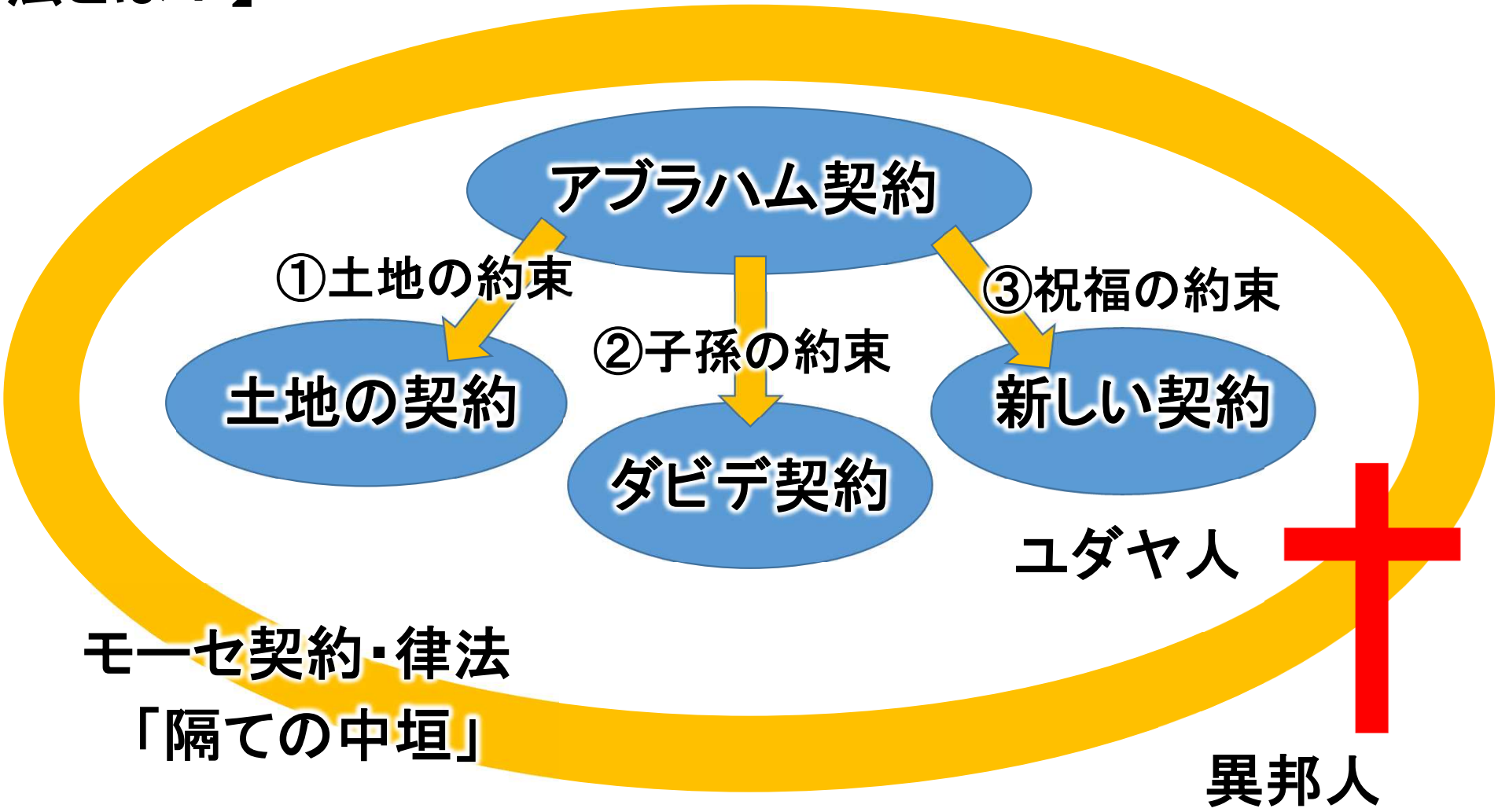
■神によって奴隷から救い出されたイスラエルが、
どう歩むべきかを示し、信仰の成長を促すもの。

■しかし、イスラエルは、律法を守り通すことができなかった。

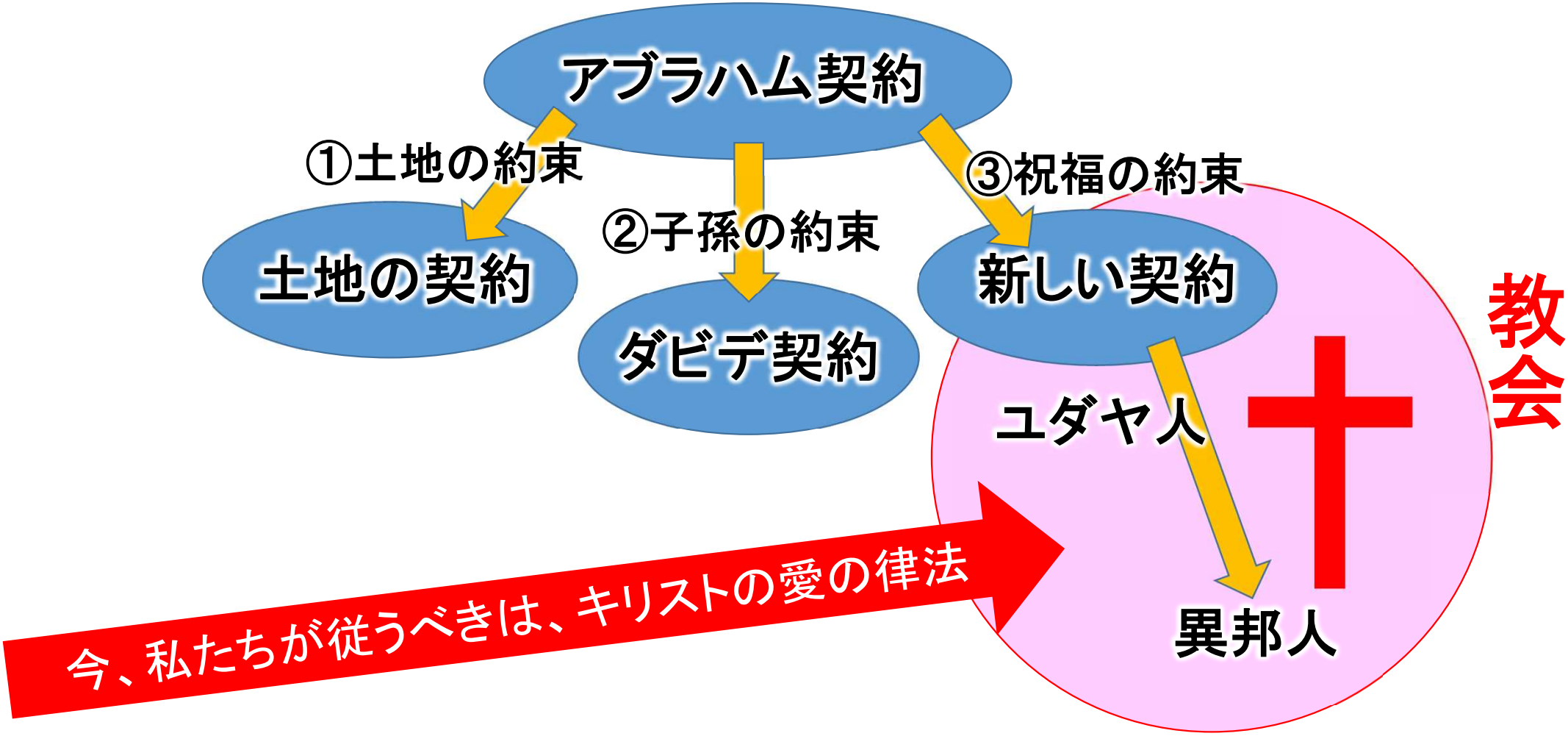
■律法に背いたイスラエルは、ついには、約束の地を追われることに。

■律法は、イスラエルの抱える重い罪の現実を突きつけ、
メシア・救い主を待ち望む思いを強く抱かせる。

【律法とは？】


アブラハム契約
①土地の約束
②子孫の約束
③祝福の約束
土地の契約
ダビデ契約
新しい契約
ユダヤ人
モーセ契約・律法
「隔ての中垣」
異邦人

【律法とは？】


アブラハム契約
①土地の約束
②子孫の約束
③祝福の約束
土地の契約
ダビデ契約
新しい契約
ユダヤ人
異邦人
教会
今、私たちが従うべきは、キリストの愛の律法

【モーセの律法と私たち】 ローマ書7:22～24

すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに、私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

■私たちの内に、「罪の律法」があって、私たちの心を支配している。

■文字に書かれた「モーセの律法」は、罪の律法に打ち勝てなかった。

➡律法は本来よいものだが、守れないのが罪人である私たち。

真実に人の罪を贖われた、救い主を信じるしかない!!

【キリストが、律法の真の目的を全うされた】 ローマ書8:1～4

　こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。
肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。
それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。

■モーセの律法では打ち勝てなかった、罪の律法を、
　キリストが、十字架の犠牲によって、打ち破ってくださった。

【律法に生きたイスラエル、キリストの律法に生きる私たち】

■イスラエルの誰も、律法を守り通せなかった。

■律法は、人間に、どうしようもない罪の存在を突きつけ、
　メシアを待ち望む思いを、人々に強く抱かせた。

■律法の目的は、人々をメシアに向けさせるためにある。

■イエス・キリストの、十字架の死と葬りと復活によって、
　律法のすべては、『成し遂げられた(ヨハ19:30)』

■今や、福音を信じたすべての者の内に、聖霊が住まわれて
いて、生きた律法として、私たちを正しく導いてくださる。

【モーセの律法と私たち】

■私たちは、信じて救われ、信じて成長していく。

■心に忍び寄る、律法主義に気をつけよう。
　自分の義・正しさで、何かをなそうとしていないだろうか？
　“ねばならない”“するべき”という自分の思いに囚われていないか？

■私たちに必要なのは、主への告白と祈り、主への信頼。
■恐れず踏み出そう。間違いは主が正し、確かに導いてくださるから。

「主よ。わたしには、できません
　しかし、聖霊によって助けてくださるならば、わたしにも、できます。」

「天のお父さま。
　わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したこと、を信(しん)じます。
　私たちが、罪のゆえに守（まも）れなかった律法（りっぽう）を
　主イエスが、なしとげてくださいました。
　わたしには、できません。しかし、主よ。
　あなたが聖霊（せいれい）によって助けてくださるなら、できます。
　信仰(しんこう)によって　救（すく）われたわたしを、
　信仰（しんこう）によって　育(はぐく)んでください。
　主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。
アーメン」